

平成28年度第8回（第35回）3市共同資源物処理施設整備地域連絡協議会会議録

○日 時 平成28年11月12日（土）午後6時30分～9時15分

○場 所 東大和市桜が丘市民センター 集会室

○委 員

（1）自治会・マンション管理組合等 以下のとおり（17名）

自治会・管理組合名	代表者	専任者
プラウド地区自治会	山本大達(代理)	光橋由訓
栄一丁目自治会	—	町田雄治
栄二丁目自治会	大舘繁	—
栄三丁目自治会	田中正明	岡田正嗣
末広二丁目親交会	—	—
新海道自治会	関村武光	—
日神パレステージ東大和桜が丘管理組合	—	後藤隆康
グランドステイツ玉川上水管理組合	—	深澤正郎
クロスフォート玉川上水管理組合	内山和明(代理)	山崎武
グランドメゾン玉川上水ウエストスクエア管理組合	坂本長生	—
グランドメゾン玉川上水センタースクエア管理組合	高木文枝(代理)	森口恵美子
グランドメゾン玉川上水イーストスクエア管理組合	—	小川昌平
グランドメゾン玉川上水ノーススクエア管理組合	邑上良一	中原貞子
グランドスイート玉川上水管理組合	—	—

（2）3市・衛生組合 以下のとおり

区 分	出 席 者
組 織 市	小 平 市 白倉資源循環課長
	東 大 和 市 松本ごみ対策課長
	武蔵村山市 有山ごみ対策課長
小平・村山・大和衛生組合	伊藤計画課長・片山事務局参事

○事務局

小平・村山・大和衛生組合	管家計画課主査・里見計画課主査・小島計画課主任
--------------	-------------------------

○出席者

区 分	出 席 者
組 織 市	小 平 市 岡村環境部長
	東 大 和 市 田口環境部長
	武蔵村山市 佐野協働推進部環境担当部長
小平・村山・大和衛生組合	村上事務局長

〈会議内容〉

【邑上会長】

皆さん、こんばんは。時刻になりましたので、本日の連絡協議会を始めたいと思います。

お忙しいところ、お集まりいただき、ありがとうございます。始まる前に、ちょっと私、きょう、調子が悪くてですね、あんまりお話しできないかもしれないので、ちょっとご了承ください。

じゃ、まずですね、事務局側のほうから、いつものですね、書類の確認等、ちょっとしていただきます。

【伊藤課長】

改めまして、こんばんは。初めにですね、まず資料のほうの確認をさせていただきたいと思います。机の上に配付されていると思うんですが、まず、次第のほうですね、こちらの下の部分にまた本日、配付資料を書かせていただいているんですが、まず1つ目としまして、懸案事項確認表ということで、岡田さんからいつも出していただいていますA4の1枚の表裏の横になっているものですね。こちらと。2つ目ということで、今度はA4なんですが、ホチキスどめになっております要求・確認事項リストということで、山崎さんから出ている資料。あとですね、あとえーとこちらもA4のちょっと冊子というか、左上ですかね、ホチキスどめされてます、こちらごみ量予測資料という形の、本日はこの3点のほうをお配りしております。よろしくお願ひします。

初めにですね、えっと、ちょっと協議に入る前に、ご連絡というか、まあ、ご報告、まあ、お願ひなんです、まあ、協議会ですね、会議録のほうを皆様に、えっと配付をさせていただいているんですが、ちょっとこのところですね、訂正箇所等が多いというような、ご指摘をいただいております。えー、事務局といたしましても、会議録のほう、業者にお願ひしているんですが、やはりちょっと精度のほうをですね、高めてほしいというところのお話をさせていただいているところではあるんですが、あとまた皆様にちょっとご協力いただきたいところは、マイクを使ってのご発言をお願ひしたいと思います。どうしても、あの、ICを使っていますので、聞き取りづらいところなんかも出てきてしまいますので、すいませんが、そちらのほうはまた皆様にもご協力をいただければと思っております。

はい、それではですね、本日の……、はい。

【山崎専任者】

あの、会議録につきまして。

【伊藤課長】

マイク。マイク。

【山崎専任者】

クロスフォートの山崎です。会議録の件で、私のほうから組合のほうに何度かお願いをさせてもらいました。というのも、あのメールで情報をお渡しされている方にも一緒にCCで送ったんですけども、結局、第30回の協議会、そこから急にふえてるんですよ。それまでは、その、一つの会議録で、3件とか4件ということで、それが30回、第30回の協議会から急にふえてて。で、今回もらった34回、一応私、見ましたけども、18件もあるんです。その前も12件とか10件とか、どんどんふえてるんですよ。だから、それじゃちょっとおかしいんじゃないのということでメール、差上げたんですけども、回答もいただいてません。今、初めて、そういう話を聞きました。

二、三カ月前にも、こういう状況だから、何とかしたほうがいいんじゃないの、多分業者委託だろうということで。だとすれば、しっかりとこういう状況だということを業者のほうに説明して、直んなければ、その、要は賃金払ってるわけですよ。それを減額するとか、そういう形しなかったら、よくなんないですよ。だから、そういう、要は提案というかね、状況説明をして、回答くださいって言うてるのに、くれないのは組合ですよ。それでマイク使ってちゃんとやってくれと言うのはちょっと違うんじゃないかなと思うんですよ。それをやっているんですか、業者のほうに。

【伊藤課長】

ええ、ですから、業者のほうに、こちらですすね、また再度、精度を上げてほしいというお話はさせていただいております。

【山崎専任者】

それ、いつなんですか。

【伊藤課長】

もう最近も、あの、連絡をしています。何度か……。

【山崎専任者】

それでもやっぱり18件とか、数がふえてきちゃうということですか。

【伊藤課長】

改めて、いろいろお話を業者さんともさせていただいているんですが、多少、言い回しって言うんですかね、その辺を少し整理していただいているようなところもあるというところなんです。そこは、あの、何て言うんですかね、発言に忠実にということで、ここでまた改めてお話をさせていただいたというところでございます。

【山崎専任者】

じゃあ、今回の議事録からは、まあ、通常に戻るという考えでいいわけですね。

【伊藤課長】

ま、通常というか、そうですね、なるべく、まあ、忠実にというところで……。

【山崎専任者】

3件、4件レベルで収まるでいいですかね。

【伊藤課長】

あと、どうしても、我々も聞き直すこともあるんですが、やっぱり聞き取れないというか、ちょっと、まあ、我々のICの精度が悪いのかわからないんですが、そういうところもあるというところをご承知おき願いたいんですが。

【山崎専任者】

わかりました。それともう1点、会議録の件でもう1点なんですけども、いつも会議録が、確認してくださいってメールが来たり、紙資料で配られていると思うんですけども、その、その回答期限っていうのはいつなんですか。要するに今までは、あの、間違いのあるところはちょっと出してくださいっていうような話しあったんですけど、最近全然ないんですよ。それで、紙でいったり、メールでいってるとすれば、まあきょうの協議会から1週間ぐらいで締め切るとか、そういう期日っていうのはないんですか。

というのね、あの、組合のホームページに載ってる、載る時期っていうのはすごく遅いんですよ。きょうも出てくるときにホームページ見ましたけども、10月26日に8月分がやっと載ってるんです。ですから、普通だったら、もう9月が、10月は今確認したということなんで、9月が載ってるのが普通かなと思うんですよ。遅いんですよ、形としては。で、私がいつも、こう会議録を見て、ICレコーダーとの差を見て、で、こういうところが違いますよって出しますが、それはもう前回の協議会の前に出してるわけです。で、こうなりましたって来るのが、この協議会の前の、3日ぐらい前に来る。もう1カ月ぐらいたっているわけです。

だから、期日を切れば、この協議会の1週間後までに回答くださいって出せば、もっと早く展開できるんだと思うんですよ。何か、その都度、あの、1カ月後になんないと、そういう返事が来ない。もっと早く展開できると思うんですね。ホームページ見る人だって、今になって8月の見たってわかんないんじゃないですか。だったらもう少なくとも9月、まあ、出るような形にしないと、ちょっと展開としては遅いんじゃないかなっていう感じがします。

すいません、以上です。

【森口専任者】

はい。センタースクエア、森口です。えっと、その締め切り、ホームページに協議会のが載るのがいつかということもありますけれど、だんだん会議録、届くのが遅くなってきているんですね。今回なんか火曜日にメールが来て、水曜日に郵送のほうが届いたか何かだと、私たち、これを見直すのが山崎さんなんかは、ほんと何日かで、短い期間で見直してます。で、業者に会議録のICを、会議録を起こしてもらうのを出しているんだって、これはお金ですから、あの、今回、終わった瞬間に出して、1週間後、締め切りとかっていうことができるわけですよね。そういうことをしてないんですか。まず、締め切りを設けてないで、業者委託をしてるのか、それとも本当は早く上がってきてるのに、組合が、あの、組合が私たちに送付してるのが遅いのか、どちらでしょうか。向こうの、業者で上がってきているのが遅いんですか。

【伊藤課長】

いえいえ、あの、業者のほうはしっかり期限を切ってますね、送ってきていただいているところなんです。ただ、またそれがあまり早過ぎて返ってくるようになりますと、またその精度の問題というところも正直出てくるというところで……。

【森口専任者】

では、質問します。それはいつごろまでに締め切りで、返ってきているんですか。それで、その後、組合さんはただずっと持ってて、私たちに送ってくるのが会議の、えっと、1週間切ってから送ってくるというのは失礼じゃないですか。さっさと上がってるんだったら、私たちのところにもっと早く送ってくれるべきだと思いますよ。いつ上がってきているんですか。あの、業者からは。

【小川専任者】

そのくらいはすぐわかるでしょう。なんでそんなに手間取ってるの。いつ来たのか、来ないとかは。笑っちゃうよ。ねえ、そんなのも答えられないのは。そんなずさんな仕事してんの。

【山本代表者代理】

そもそも業務の標準書みたいなのはないんですか。

【小川専任者】

うん。

【山本代表者代理】

何かいつまでに何をやってというのがあって、それに対して、どこがおくれてるかというのがわかるようにしてもらいたいというところなんですけどね。

【森口専任者】

最初のころはね、1週間以上前に届いてたんですよ、ちゃんとメールのほうは。それがずるずるおくれてきてね、火曜日にメールで来たっていうのは、あまりにも失礼ですよ。それをとめてるのが、業者が上がってきてるのに、組合がとめてるんだったら、何てことだということですよ。どちらがとめていらっしゃるんでしょうか。

【伊藤課長】

まあ、業者から上がってきた会議録をですね、我々のほうも確認をしてというところがあるので、ちょっとそこに時間がかかっているというところは、まあ、正直なところですよ。

【岡田専任者】

もうその議論やめて、決めましょうよ。

【小川専任者】

いや、岡田さん、こういうことをはっきりしないとだめですよ。

【岡田専任者】

いや、だからはっきりさせましょうよ。だから……。

【小川専任者】

はっきりさせましょうよ。

【岡田専任者】

ですから……。

【小川専任者】

そんなこと言ったらだめですよ。

【岡田専任者】

大体の形で今までやってるはずですから。じゃあ、来月から、来月のミーティングは12月ですよ。きょうは9月、あ、11月12日とすると、ここが12月、11月、12月。大体どのスパンで渡せますっていうのを言えますよね。

【坂本代表者】

すいません、いいですか。私も、あの、ちょっと次元の低過ぎる話で発言したくはなかったんですけども、通常、私も、あの、この業者委託する場合、ここに、何ですか、議事録の業者委託というのは、そんなに値段も日本語の場合には大した金額かかんないですよ。それで、あの、契約するときに、1週間以内にまとめてくれていうことを最初に申し上げておけばいいわけですよ。それで、やりとりして、あの、1週間かかっても、ここはこのように訂正するか、それで、ワード形式でもらったら、それをこちらで訂正すればいいようにしておけばいい話で、1週

間という期限をとっとけばいいじゃないですか。

外国翻訳だってね、これぐらいの議事録だったら、2週間あれば、きちっとやってくれますよ。値段は3倍か4倍になりますけれども。外国シンポジウムとかで、シンポジウムとかでやった場合にね、それは時間かかりますよ、専門用語ばかりだから。ところがこんな簡単なのは、幾らあれでも、じゃ、ワード形式でくれ、訂正はこちらでやるからって言えば、1週間してくれるはずですよ。

以上です。ちょっと時限の低い話で、あの、時間がもったいないと思います。

【岡田専任者】

いいですか。山崎さんね、来月の会議のどのぐらい前にもらえればありがたいですか。それ、希望、ちょっと言ってください。

【山崎専任者】

ていうか、その前に、その業者さんに委託した日程が、例えば1週間以内というのがあれば、そこからこう。で、あと組合のほうで確認するのが1週間として……。

【岡田専任者】

いや、ですから、我々が見れんのが……。

【山崎専任者】

そこが早ければ早いほど楽ですよ。

【岡田専任者】

希望としては何日まで。

【坂本代表者】

2週間前ぐらいにしとけばいいんじゃない。

【山崎専任者】

にいただければね。

【岡田専任者】

希望としては2週間でいいですか。10日ぐらいでもいいですか、2週間というか、そういう。

【小川専任者】

10日ほどあればいいです。

【岡田専任者】

じゃあ、10日。希望としてはね。ここはどうでもいいですよ。10日前にはくださいという、この辺のところは我々がね、とやかく言う問題じゃないんで。10日前に送ってくださいと。ここは我々が1週間で翻訳せいかかそういうことは言わないんで。10日ぐらい前に出してほしい

と。この辺を中心にちょっと線表まるを引っ張ってくださいよ。それでいいんじゃないですか。過去はいいですよ、もう。今、これから何をやるかっていうのを決めればいいだけの話ですから。で、いいですね。

【小川専任者】

過去はいいって、岡田さんね、そういうこと言わないで、はっきりさせて、何でそうなったのか、はっきり言わないとだめですよ、それは。これからこれからって言って、そう、はい、いきましようって。今までね、そう言って、約束して守ったことないんですよ。原則なんだけどさ…。連絡協議会のひとつないんですよ。前言ったときね、ここの連絡協議会をどうやって、反対の意見も載せましようと。

言っても載せてないじゃないですか。そういうこと言って、どんどん向こうの、行政側のね、意見のとおりってんですよ。少なくとも10日ぐらい前やらないと。私なんか、きょうもらってね、ああ、水曜日もらって、あの、忙しいから、市役所なんか定時もあるわけで、告示できないんですよ。正直に言うと、木金でしょ、土でしょ、みんな見て、そう、予定立ちますか。

【岡田専任者】

じゃ……。

【小川専任者】

だからね、私、読むのにね、みんな仕事忙しいからね、会議録なんか読む暇ないんですよ。で、やっと、もう、きのうときょうなんて、読んで、参加するだけの話ですよ。まあ、私ね、強いて言いますとね、岡田さんなんか怒られるかもわかんないけど、わざとやってるんじゃないですかと。おくらせてね。それしか思えないでしょ。

【伊藤課長】

いやいや。

【岡田専任者】

じゃあ……。

【伊藤課長】

すいません、今現在は、すいません、2週間で業者から返してくれる、返していただくような、そういうような形での話になっております。で……。

【岡田専任者】

きょうの我々の希望としては、10日前に紙で読む人もいますから、1日で来ると思いますから……。

【小川専任者】

10日ぐらい前だって。

【岡田専任者】

10日前には到着するような日程でつくってください。

【小川専任者】

土日で読めるから。

【岡田専任者】

いいですね、それでね。

【伊藤課長】

そうですね。ええ。

【岡田専任者】

10日前に。メールの人はいいです、紙で読む人もいますから、10日前に到着するような。発信は1日前にすればいいわけですから。1日で来ますから。

【山崎専任者】

もう1点いい？

【森口専任者】

一言言わせてもらっていいですか。私、岡田さんと一緒にコンビで、岡田さんの書いた板書きを、私、タイプアウトしてますけれど、タイプアウトと会議録じゃ、長さがこんだけ違いますが、仕事じゃなくても岡田さんとコンビ組んでね、一生懸命早く上げるように努力してるのにね、なんで給料もらってる人たちがね、きちんとできないかはね、やっぱり腹が立ちますよ。

【片山参事】

2週間で、うち1週間もらって、1週間ぐらい前を目標にしたら。

【山崎専任者】

関連でいいですか。あの、業者さんのほうから上がってきた、2週間で上がってきたものに関して、組合のほうで確認してるっていうことですが、それはもう一回、聞き直してるっていいことですか。調べ直してるっていいことですか。それでも18件出ちゃうってことですか。

【伊藤課長】

そうですね、正直……。

【山崎専任者】

それだとあまりに、確認しても意味がないじゃないの。そこで見つかっているんですか。

【伊藤課長】

あの、正直、先ほども言いましたけど、聞き取りづらくて、穴あき状態のような状態で返ってくるというところもありますので、そこを何度かね、こう聞き直しながら穴埋めをしてるというようなどころはあります。そこに時間がかかってるところが確かにあります。

【山崎専任者】

確かに私も聞いてると、あの、聞きづらい内容とか、あと専門用語みたいなのかなというように感じて聞いてますけども、それでもそんなに多くないです。もうここで自分が見つかるレベルですから、異常に単純なミスです。あの、漢字変換が間違っていたりね、あと書き方が違っていたり。中には、ひどいのは、もう先に言った言葉が最後のほうに来ちゃったり。あの、言ってることはね、同じかもわかんないですけども、最初に言った言葉っていうのはすごく強いんですよ。それをね、わざわざ後ろにこう持ってってんじゃないかなっていうような感じのところもあるんですよ。

【伊藤課長】

そうですね、わざわざというか、そこが先ほど言いましたけど、業者さんが少し……。

【山崎専任者】

いや、それは発言がね……。

【伊藤課長】

直してるってあります。

【山崎専任者】

曖昧だったらいいんですけども、明らかに最初に言ってるんですよ。で、その後に発言をするのに、わざわざ最初に言ったことを最後に持ってきてるんです。だから、これは意図的だかっていうふうに思いましたよ。だから、そういうために確認してんだったら、確認やんないほうがいいですよ。今までどおりやるっていうことで10日前っていうことですね。

【伊藤課長】

そうですね。

【山崎専任者】

にいただけるということですね。

【片山参事】

1週間ぐらい前を目標にさせていただければと思いますけど。

【山崎専任者】

それはメールと紙で皆さんに送ってもらえるということですか。

【片山参事】

一応目標という形にさせていただきますか。

【山崎専任者】

目標？

【片山参事】

先ほど申し上げましたように、穴が大分あいてきますんで、そこを埋めなくちゃいけない。その作業が1週間程度はかかりますので。

【山崎専任者】

そうすると3週間ということじゃないですか。

【片山参事】

ええ。

【山崎専任者】

10日前にはできないということですか。

【坂本代表者】

それを含めて10日前っていうことを言ってるわけ。

【山崎専任者】

じゃないですかね。

【坂本代表者】

言いわけばかりになってたら……。

【片山参事】

努力はさせていただきます。

【坂本代表者】

全然進まないじゃない。その辺、努力してくださいよ。

【山崎専任者】

だって今までは1週間前に来てたんですよ。それが今は3、4日前になっちゃってるから。

【片山参事】

それを1週間前に戻すように努力は。

【山崎専任者】

だから、もとに戻して、さらに余裕をもって10日前にしてくださいっていうこと、今決まったんでしょ。それを目標って言われても。

【片山参事】

決まって……。

【山崎専任者】

それはおかしいですよ。

【小川専任者】

そこを曖昧にしちゃだめですよ。ちゃんと10日前なら10日前と。目標じゃなくてちゃんとやらなきゃだめですよ。

【片山参事】

そういう意見はいただきましたけども。

【小川専任者】

実務は実務だからね。

【片山参事】

決まったわけじゃないですから。

【森口専任者】

あの、穴埋めなんですけれど……。

【片山参事】

その努力はします。

【森口専任者】

穴を埋めるのに……。

【小川専任者】

おかしいこと言ってんだよ。

【森口専任者】

聞こえないものを1週間持っても聞こえないと思うんですよ、それは穴なんですから。それでしたら、聞こえないで、不明で、不明瞭で括弧でも仕方ないと思うんですよ。そうすれば、ほかにテープ取ってる方が埋めてくれるかもしれないのに、その穴を埋めて、聞こえないところを1週間ずっとこうやって聞いてても、それは聞こえないと思いますよ。そのために1週間とってらっていうのは言いわけにしか聞こえません。

【小川専任者】

何か変だね。

【山崎専任者】

穴なんて、そんなないんですよ、私、聞いてて。

【小川専任者】

目標とか努力とかさ、こんなの実務側の問題でしょ、事務的な問題なのに。事務、提出するのに何か目標あるんですか、努力あるんですか。

【山崎専任者】

まず10日にしてください。

【伊藤課長】

ですから、いいです、今その話をね、今出ましたので、次回にはそのような形でお送りしたいと思っておりますので、そこで明らかにですね、また非常におくれてるとかあれば、またご指摘ください。我々のほうも、今、期限ね、話が出ましたので、そこに目指してやっていきますので、すいませんが、よろしく願います。

【岡田専任者】

とりあえず、12月に向かってやってくださいよ。それでどうしてもだめだったら、また反発食らうかもわかんないけれども、丁寧に説明していただいて、ここまでと言ってくださいよ。きょうは一応これで目標っていう、目標というか、議事録上は10日前と今しておきますから。

【小川専任者】

そういうことやるからね、岡田さんが怒るんですよ。だまされるようになってるから。会長がおかしなこと言うから。ちゃんと、はい、10日前にやりますって言ったら、それで終わりじゃないですか。

【山崎専任者】

すいません、もう1点。ホームページの件、先ほど言いましたけども、今、10月26日にやっと8月分が載ってるということですけども、今、34回の、第34回の会議録の確認を皆さんにお願いしてますよね。その締め切りはいつなんですか。結局その回答が来るのが1カ月後なんですよ、私のところ、私というか、メールでいただけんのがね。で、こういうふうにしました。で、それから展開するわけでしょ。当然もう1回確認するかどうか、確認するかどうかわかりませんが、3市の市長や何かに、管理者にこう見せて、承認もらうわけでしょ。もらわないんですか。それが遅いから、結局ホームページに載っけるのがおくれちゃうんじゃないですか。

【小川専任者】

報告もしてないじゃないの。

【山崎専任者】

会議録の確認を、の期限を決めて、例えば、次の協議会の5日後とか1週間後って決めて、そこでもうあれすればいいじゃない。あの、おかしいところチェックすれば、書いてあるんだから、

多くたって、18項目とかそんな感じですから、それを見るのには10分から20分あればできるんじゃないですか、その場所だけなんだから。で、それを直して、その管理者に見せたり、ほかの人に見せて、確認をもらって、で、了承を得ればもうホームページに載せられるでしょ。そうすれば、2カ月も3カ月もおくれてホームページに載るような作業じゃないと思いますけどもね。我々だって、一生懸命、来たらすぐ確認をして、回答を渡してるわけですよ。その回答が1カ月たたないと来ないというのがやっぱりちょっと異常だと思うんですよ。仕事ですから。皆さんの。

【岡田専任者】

じゃ、これも決めましょうよ。

【山崎専任者】

そうですね。

【岡田専任者】

先月の打ち合わせの議事録は今月もらいます。今、この場です。そしたら、我々は何日後までに回答しなくちゃいけないかというのは、これは我々の責任で決めてもらいたいですよね。

【小川専任者】

そんなこと言ったら……。

【岡田専任者】

この回答は我々がするわけですよ。議事録を見るのは。きょう正式にもらって。ですから、1週間後なのか。1週間でいいですか。

【山崎専任者】

ほんとだったら、メールで来て、紙で渡してるわけですから、本来だったら、この場でもう出なければ締め切りでいいと思うんですよ。

【岡田専任者】

それだったらそれでいいですかね。みんな見てるんだから。

【山崎専任者】

そうするとね、もしここが違ってます、おかしいんじゃないですかっていったものを、だから月曜日にすぐ確認してもらえれば、もうそれで会議録の本体としては完成するわけでしょ？ で、管理者とか、副管理者とか、各市の担当の方に確認してもらうのに1週間なら1週間かかったとしても、その後には、それで問題なければすぐにホームページに載せられるわけでしょ。そうすれば、1カ月は少なくとも早くなります。

【岡田専任者】

今回は、皆さん回答出してる。

【山崎専任者】

はい？

【岡田専任者】

10月分の回答、きょう、11月ですけど……。

【山崎専任者】

私はもう出しました。

【岡田専任者】

出してる。

【山崎専任者】

はい。

【岡田専任者】

ほかの方がいいのであれば、今月から、じゃあ、あと。要するに、もう回答全部もらいました、きょうの時点で。そこからどういう線表が引っ張れますかっていうのについては、1週間、1週間あったら2週間ぐらい、まあ、極端な話、ね。2週間もあればできないっていう話、何もありませんよね。もうきょうはこれでオーケーだとおっしゃっているんですから……。

【小川専任者】

岡田さんね、岡田さん、いつから会長になってるの。そういうのは会長が、スケジュール。

【森口専任者】

きょうは会長、ぐあいが悪い。

【小川専任者】

ぐあいが悪いから。

【森口専任者】

よろしくお願いします。

【小川専任者】

それをね、周りがちゃんと、岡田さん、ご努力してるのはしますから、その板書だけで、ね、やろうという話だったんだ。何か仕切ってる感じが。だめです、そんなの。

【岡田専任者】

いや、話をね。

【小川専任者】

話を、いいですよ、それは意見としては。

【岡田専任者】

ですから、これ決めてくださいよ。ぐちゃぐちゃぐちゃぐちゃ言わないで、日程、ぱんぱんぱんぱん決めていかないと話が。ですからね、これからどのぐらいでできるかを検討してください、今ここで答え出す……。

【小川専任者】

岡田さんが会長で仕切ってる感じだね、おかしいよ。

【片山参事】

まあ、具体的な話が出ましたんでね、申し上げると、例えば表現の訂正とか、そういうものもお願いしながらつくってますんで、この場で確定、前回のものを10日前、目標に、連絡協議会の、この協議会の10日前を目標に、皆様に渡るようにして、で、この場で確認ということはいんですね。この場でもう訂正はなしと。

【森口専任者】

10日前に必ず上げてくれれば。

【片山参事】

10日……。

【森口専任者】

それがまた1週間になったり、3日前になったりすれば、私たちは今回なんか……。

【片山参事】

それは10日前がですね……。

【森口専任者】

3日でやってるんですから。

【片山参事】

目標にしますけれども、その会議によっては表現調整とか、例えば、申しわけないんですけど、中傷するような発言とかですね、そういうのもあるもんですから、ご本人さんと調整させていただいたり、そういう事務があるもんですから、どうしても時間かかってしまうんですね。だから、まあ、10日前ということで目標とさせていただきますんで、その後は。その後の内部手続きがどうかということですよ。

【岡田専任者】

そこ検討してくださいよ。あんまりまた発言するとあれ……、今ここでこれは決めてください

よ。中で。中でもんでくださいよ。タブレット渡せることです。

【村上局長】

いや、きょうじゃなくて、持ち帰って決めてください。

【岡田専任者】

来月か。

【坂本代表者】

すいません、いいですか。

【松本課長】

10日前までに渡すんだけど、組合として、確認できない部分はマーカーつけてもらって、で、10日前のこのままで……。

【山崎専任者】

何でそんなごちゃごちゃしてんの。

【松本課長】

そうすれば。

【山崎専任者】

もたもたしてるな。

【松本課長】

みんなやってるって。

【山崎専任者】

何かね。

【坂本代表】

すいません、あの、片山さんもこういう会議はなれていらっしやらないかもしれないですけども、私もこういう経常的な会議っていうのは何百回もやって、議事録も確認してましたけれども、通常であれば、今までどおり、私、そう解釈してたのは、10日前までに議事録をくれたら、それによって、この会議で確認すると。だから、議事録確認という意味で、ここに1つ、設けなきゃいけないわけなんですよ、通常は。でないと、議事録が確定しないわけなんですよ。

だから、そういう意味で、山崎さんがさっきからおっしゃっているように、10日前までぐらいいにくれなきゃ、内容的に、直近でくれてもそこまで確認できないから、早くくっておっしゃっているんですよ。だから、通常ね、議事録作成になれている人であれば、10日前までぐらいいに来て、その後の会議で確定する。それが議事録確認という作業なんです。だから、そういうのになれてないから、こんなことでごたごたやってるわけですよ。もう既に30分も経ちましたけ

ども。

以上です。山崎さん、それでよろしいんですね。

【山崎専任者】

日程さえちゃんと。約束通りやってくれれば。

【伊藤課長】

じゃあ、すみません、ちょっと。10日前ぐらいを目途にですね、皆様のほうに会議録のほうを渡すというところの、我々、そのようにこれから事務を進めていくようにしたいと思います。で、次の会議の場で、前回のその確認がとれるというような整理をさせていただくというところで、よろしいですかね。で……。

【坂本代表者】

そこで問題点とか疑問点があれば、そこでここは違うんじゃないかということ議論してフィックスさせると。そういう流れなんですよ、通常は。会議っていうのはそうじゃないですか。でないと議事録というのは、ただつくっただけで、だれも見てないようなのは会議録じゃない、議事録じゃないですよ。だから、そこはもう今からでもいいですから、山崎さんはそういう意味でおっしゃっていたんです。だから、何日も前にくれなきゃ、内容を見ようがないじゃないですか。前後の齟齬とか、誤りとかいうのはわからないじゃない。そういう意味なんですよ。非常に単純なことなんです。だから、今からでも遅くないですから、議事録はちゃんとそういうのになれていってくださいよ。

【片山参事】

ちょっと、確定してからの、今そこまでは話が一致してますよね。その後の流れについて、ちょっと持ち帰って、ちょっと調整させてもらえますか。私と、計画課、申しわけないですけど、組織、私どもの課だけでやっているものじゃないもんですから、ちょっと持ち帰らせていただきたいんですけど。

【坂本代表者】

どうやって、持ち返って協議するというのは……。

【片山参事】

組織として、ちょっと。

【坂本代表者】

どういう意味で何をどう変えるんですか。今の発言に対して。

【片山参事】

変えるということじゃなくて、持ち返って、ちょっと調整させていただきたいと……。

【坂本代表者】

どうやって調整するんですか。ここで言ったっていいんじゃないですか。

【片山参事】

いやいや、内部で役割分担がありますので。組合内部で。その手続きがちょっとどの程度かかるのかっていうのは、ここで私どもですぐ回答できないもんですから。

【小川専任者】

あのね、マイクかしてくれますか。

イーストスクエアの小川ですけれども、さっき、衛生組合の方の回答はね、何かちょっとおかしいですよ。さっき、ちょっと質問ありましたけど、例えば、委託業者あったと。で、1週間で上げなさいと。1週間で上げたやつを、5日で、何、1週間だったら1週間でやりました。きょうだったら、もう1週間後だ。それから、おたくのほうを確認すんでしょ。確認も山崎さん言われたとおりに、山崎さんも確認してますよ。で、それで、それが何より2日、3日かかると計算できるじゃないですか。それをここで持って帰って調整しますっていうことは、今までそういうこと、何かただただやってるじゃないですかっていう疑問が起こりますけどね。内部かわかりませんけど。いろいろと忙しいと思うんですけども、会議録っていうのはね、10日までなら10日まで。きちっとやる。目標じゃないですよ。それまでやるように努力しないとだめですよ。まあ、突拍子もないご発言がある、事故とかいろいろあったら、それは別ですよ。

だから、そういうふうにして、目標にしますとか、持って帰って調整しますとかっていったら、また1カ月おくれてね、何とかかんとか、それで時間がたつじゃないですか。行政がそういう怠慢なことやるからみんな怒るんですよ。今までの内容を見て感じてるのは。さっき、片山さんが中傷と言いましたが、中傷とかあんまりないですよ。ただ、僕ね、合わない会議があるかということで、私も指摘受けました。だけど、会議っていうのはここであったのをそのまま載せるもんですよ。そのまま。あるがままに。訂正しないで。

【坂本代表者】

おっしゃるとおり。

【小川専任者】

それが本当のことなんです。それを読む人によって、相手方はどうするかと。いろんな、本当に中傷だったら問題ですけど、そういうことはないんですよ。例えばの話はあるんですよ、それは。そういうことをね、はっきりしないと。この廃プラの建設、今ずっと見ましたら、まあ、ちょっと長引きましたけど、ずるずるするの、曖昧にして、その体質でもあれだと思いますよ。私、怒ってますよ。

だから、ちゃんと会議録読んで、10日までに読んで、みんな参加しようと思って。それから、管理組合のほうもちゃんと告示して、はい、ありますよとやるのに、やって努力してんのに、水曜日に送って、私、夕方見て、告示したら、もう木金、きょう土ですよ。3日しか皆さん見ないじゃないですか。だから怒ってるんですよ。そういうことを踏まえて、よく考えてください。答え出すのはちゃんとはっきり出さないと。ここで出せないということは、何か内部で、私、こういうこと言うの悪いけども、ちょっとずさんな事務手続き、その進行をやっているとしか思えません。

【光橋専任者】

プラウド地区の光橋です。ちょっといいですか。こんなもめと思わなかったんで。山崎さんに質問なんですけど、今回の話はそもそも第30回の議事録からミスが多くなって……。

【山崎専任者】

そうですね。傾向的には。

【光橋専任者】

遅くなってきたという話ですよ。

【山崎専任者】

私ずっと第1回から聞いてるんです。ICレコーダーと。

【光橋専任者】

で、遅いとか、アポが遅いとかいろいろ今もめてますけど……。

【山崎専任者】

それもあります。

【光橋専任者】

もう2年間やってきたわけで、だから、その30回以前は問題がなかったという理解。

【山崎専任者】

まあ、間違いも少なかったですし、データをくれる、メールで送ってくれるのも1週間以上前にくれていたんです。

【光橋専任者】

はい。だから30回以前の状態に戻していただければいいだけの話で、何で30回以降からおくれたのがご説明いただいて、それが改善できるか、できないのか、ご説明いただければ、もとに戻していただくだけでいいと思うんですけれども、その30回というのは何年の何月分からとかわかります？

【山崎専任者】

10月が34回ですから……。

【坂本代表者】

七、八……。

【森口専任者】

えっと、6月ですね。

【光橋専任者】

6月分からということですか。

【森口専任者】

はい、6月11日からです。

【光橋専任者】

何か原因、わかりますか。今のところ思い当たるふし、ないですか。業者、変えたとか。担当の方が変わったとか。

【山崎専任者】

そうですね。普通は変化点ってあるわけなんですよ、その6月から何か有ったと言うのが。

【光橋専任者】

もとに戻していただければいいだけじゃないですか。なぜできなくなったのか。それだけのことですよね。持ち返るとかそういうんじゃないで。今までのことがなぜできなくなったのか。

【坂本代表者】

テープ起こし会社を変えたわけではないでしょ。

【光橋専任者】

もう2年以上やってるわけですから、何で今さらこんな議事録のタイミングの話。初めてやるんだったらわかるんですけども。それだけのことなんで。今この場では思いつかないんですかね。

【伊藤課長】

そうですね、ちょっと6月で特に我々、体制を変えたということではないですが。ただ、その確認作業がおくれがちになっているというところはあると思いますので、ちょっとそこは改善していきたいというふうに考えておりますし、以前の5月までというようなところをまたですね、ま、思い出してと言うと変ですけど、そちらの流れにですね、戻すような形で、早急に、なるだけ早く返せるような形をとっていきたいと思っております。

【光橋専任者】

はい。だからわりと回答は簡単で、30回以前に戻していただく。まことに勝手ながら、我々が思い当たるふしというのは、4月に担当の方が変わったという事実があると。そこから2カ月後からおくれ出したということがありますので、担当者が変わったからかなと予測するんですけども。それだけのことであれば、前の方の担当の方のやり方をちゃんと踏襲していただいて、きっちりやっていただきたいなと思いますので、次回には明快な回答をいただいて、改善いただけるのがベストだと思いますので、期待してお待ちしております。

【岡田専任者】

じゃあ、いいですか。この話としては、精度を上げるということとホームページのアップを早くやってくれという、そういうことだけなんですよ。で、それをやるために、まず10日前に出すということで、この20日間で業者と、それから組合との校正を20日間でどうすればできるかということ、これを組合でやってください。それから、当月、その会議で確認されるわけですから。議事録上に、その議事録確認項目を入れていただきたい。レジュメにですね。これ、提案のところに。

それで、きょうの会議以降、じゃあ、いつホームページに載るかは、これはやはり内部で調整しなくちゃならないと思いますから、これは来月必ず報告してください。当月確認されたらば、何月、要するに何週間後にはホームページに上げますということ、今ここで回答ってなかなかちょっと、おられない方もいるかと思いますが、これ私、勝手に決めちゃまた怒られるんですけども、それでよろしいですか。

【山崎専任者】

あの、メールもあるんですし、内部調整っていうのは1日で終わると思うんですよ。ですから、月曜日に内部調整して、で、この期間だけ必要ですっていうようなことをね、メールなり紙なりで送ってくればいいんじゃないですか……。

【岡田専任者】

メールで、そうですね。それでも。

【山崎専任者】

次回まで待つ必要ないと思います。

【岡田専任者】

じゃあ、可能ならメールでと。

【山崎専任者】

メールと紙ですよ。会議録を送るような形態で情報提供してもらえればいいかなと。

【岡田専任者】

なるほどね。内部で調整して、可及的速やかに回答していただきたいと思います。

【邑上会長】

すいません、少し発言します。邑上です。山崎様、マイクを使って発言していただいたほうがいいかなと。で、今のお話、その進め方でいいんですけども、一応実際、どういうプロセスとか、どういう作業をして、どれだけ時間がかかっているということは、現状の把握はしていただいて、今、議事録の話は、まあまあやれているので大体見えてきていると思うんですけど、ホームページへのデータの掲載については、明確な話は出てないので、どういうプロセス、どういう作業があつて、掲載に至るのか、時間と作業については明らかにしていただいて、もしそれが、どうしても今の時点で1カ月かかりますということであれば、じゃあ、ここは10日を5日にしてほしいとか、そういう話をして、短くできるような話ができるといいかなと。次回ですね。今は明確に話、できないとしてもですね。そういうふうにすれば、改善できると思いますので、掲載までのプロセスのほうの確認をお願いしたいと思います。議事録については、これでよろしい、今のことについてはこれでよろしいですかね。

【伊藤課長】

それでは、すいません、本日の協議の内容ということを考えていて、前回申し上げましたが、半分の時間をというところを考えていたんですが、大分時間がたってしまいました。申しわけございません。半分と言いますと、19時45分ですかね、そこを目安というふうには考えていたんですが、今回ですね、我々事務局のほうからのお話ということで、配付資料、3点あるんですが、まずですね、岡田さんから出していただいております懸案事項の確認表ということで、今までちょっともう穴があいていたようなところを埋め込んでみましたので、こちらの説明のほうをまずさせていただきたいと思っております。

前回までの資料と今回埋めたところというところをまずは申し上げさせていただきたいと思えます。

まずですね、No.2なんですが、No.2のほう、事故等による長期停止の際の対応、設備二重化しないためというようなお話をいただきまして、こちらの途中回答、ちょっとその審議最終回答、どちらに入れるかというところあったんですが、途中回答のほうに入れさせていただいております。こちらにつきましては、メーカーヒアリングのほうをいろいろと行っているんですが、その結果、重故障、3日以上ですね、修理期間を必要とするものが発生する可能性が低いというようなことでメーカーのほうからは話を伺っているところです。まあ、ただですね、仮に重事故等が発生した場合というときには、組合のほうの敷地を使いまして、保管をすることで対応してい

くということで考えております。

続きまして、4番目ですね。排ガス対応、さくら苑側も検討ということで、こちらは7月9日の協議会で仕様の関係でお話をさせていただいていると思うんですが、こちら近接する住宅に配慮をいたしまして、必要な遮蔽壁のほうを設置するように仕様書のほうに明記するというので、7月の時点でもお答えはしております。

9ページですね、ちょっと先ほども出ました議事録のホームページへのアップ状況ということで、訂正等の終了をした後、掲載可能なものにつきましては、速やかにホームページに掲載しているという回答をさせていただいているんですが、先ほど来のお話がありましたので、我々、またですね、ホームページ等の掲載のほう、少しでも早くというところでまたタイムスケジュール等をつくっていきたいと思っております。

変えたところとしまして、あと22番ですね。ちょっと……、22番、No.22で、ちょっとペーパーのほうも画面でもちょっと見づらいのかなというところはあるんですが、こちらはプラスチック容器の分別の推進という形で、山崎さんがですね、4月9日ですかね、お話をいただいたというところがございます。こちらは一番下のほうにですね、文書回答でお願いしたいということも書いております。我々の回答、審査最終回答のところに入れさせていただいているんですが、8月の6日ですね、こちらの地域連絡協議会の資料としまして、一般廃棄物処理基本計画、平成26年3月策定における容器包装プラスチック移行量計画目標、小平市さんの作成なんですが、こちらのほうを配付をしております。

24番の生活環境調査説明会の開催ということで、こちら8月の協議会のほうでお話もさせていただいているんですが、7月の29日に衛生組合で、こちらは市民ですね、対象の説明会という形で開催をいたしました。また、この協議会のほうでも生活環境影響調査書のほうの説明のほうをさせていただいております。

えー、26番の建設スケジュールの提示なんですが、こちらは10月の時点でも建設スケジュール（案）配付済ということで、ここはまたスケジュール等が変わってきてしまえばですね、またその辺は皆様に速やかに提示をしていきたいと。基本的にはスケジュールどおりに進めていきたいと考えているんですが、変更があったときにはお伝えをしていきたいということで、とりあえず、10月の15日に前回のですね、協議会でもスケジュールのほうはお示しをしているというような状況で、こちらのほうを記入させていただきました。

なおですね、裏面につきましては、建設基本を除くという形で、そもそも論だと思ふ、そもそも論的なものなんですが、こちらのほうはもう1年ちょっとたってしまうんですかね、光橋さんのほうから以前いただいている、そもそも論的なところの質問ということで、まだ回答が全てさ

れてないというところがございますので、まず、回答希望内容という形でこちらのほうは記入をさせていただきます。きょう、触れる、触れられる時間あるようであれば、後半等にですね、こちらのほうのお話をいただければ、回答等を進めていきたいというところです。

それではですね、ちょっと続きまして、こちらのほうから配付しました……。

【森口専任者】

質問は、これについての質問は受けつけないんですか。これ、今、説明されましたよね。これ、説明されて、そのまま行くんじゃないで、これで皆さんわかりましたかって聞かなきゃいけないですよ。次に行きますよじゃなくて、ここを渡して、読んで、説明終わりましたじゃないと思うんですけど。岡田さんは岡田さんの建設の部で、岡田さん主になって書かれましたけれど、質問はないですか。なければ、私、質問したいんですが。

【岡田専任者】

いえ、森口さん言う前に私が言おうかなと思ったけど。

【森口専任者】

ありがとうございました。じゃあ、どうぞ。

【岡田専任者】

2点あります。岡田でございます。

まず、No.2 なんですけどね、重故障が起きたときには、組合側で保管しますという対応するというね、寝屋川行ったときにも、爆発事故のときには、月単位でとまってるはずなんですよ。ですから、これ言ったときに、要するに第二のソースって言うんですかね、そういう、どこへお願いするかとかね、そういう道筋はつけておかないと、二重化してないんだからまずいんじゃないですかという話をしているんでね、これは回答になってないと思う。組合の敷地で保管できるんだったら、重事故じゃないんですよ。要するに施設が何らかの形で長期間とまってしまったときにどうする、二重化してないんであればね。そうしたら、セカンドソースみたいなもの話もあらかじめつけておかないとまずいと思います。それが1点目と。

それから、No.26の、これも何度も話してるんです。建設スケジュールは毎月出してくださいよと。今こちらのほうから変更があれば出しますよということの話なんですけどね、いや、それでも構わないですよ。変更が今月あって、6カ月後に6カ月おくれましたみたいなものもらっても困るんですよ。ですから、やはりこれは少なくとも今月までは計画どおり行っている、行っていないはずなんですよ。多分こういう建設ですから、毎週なり、10日なり、1カ月に一度はスケジュールの確認をやられていると思いますからね。1カ月で、2カ月、3カ月後に計画変更ないのってあり得ない。

ですから、私はね、毎月、建設計画、おくれたから悪いって言っているんじゃないんですよ。現状において、今この辺はちょっとクエスチョンですよっていう話をしておいてもらえれば、6カ月後に6カ月おくれましたっていったら、何言ってるんだ、おまえらになっちゃうんで、きめ細かく毎月出してください、これは。これは私、何度もいつも言っているんです。日程表を出さないから文句が出るんですよっていう形なんですから。これはまずNo.2の件とそれからNo.26については、これは出してください。

以上、2点です。

はい、森口さん、どうぞ。

【森口専任者】

私、いいですか。では、私、行きます。

まず、ここの回答にある9番のホームページは、ホームページに速やかに掲載していないので、ここの回答は速やかに掲載していないと書き直してください。

それと、あの、ここの22番の既に回答済というやつですね。プラスチック移行計画について、既に回答済ということで、審議終了のところについてますけれど、これについては山崎さんが了承してなくて、おかしいだろうということですずっと異議を申し立てているわけですから、こういう、何て言うんでしょう、会議の審議終了日時を入れたときには、それについて、もうこれ以上話すことがないっていうことであれば、それに対して、協議会での評価を入れてほしいと思います。あの、ここの回答について、納得していない、評価できない。

というのは、ここは協議会なんですから、回答しっぱなしじゃなくて、必ず評価、今、岡田さんがおっしゃった、メーカーヒアリングのことがあるということで、二重化しない件については、まだこれから違う回答を岡田さんが求められているので、最終回答じゃないっていうことになりますよね。でも、この最終回答になっているところというのは、山崎さんの質問について、最終回答にされてますけれど、これが最終回答であるんだったらば、私たちはまだ山崎さんの話が書いてないのに、最終回答とするのはおかしいというふうに私は判断したっていうふうに書きたいです。協議会として皆さんがどう思っているかをちゃんと聞いてから、その最終回答をしてほしいと思います。

それと、スケジュールなんですけど、建設スケジュール(案)、最新にもらったものと計画、あ、実施計画に載っているものと見比べたらば、何か最新のものとその1つ前のものがあって、最新のものは3カ月だか2カ月おくれますっていう報告を受けて、この間、おくれたっていうのを書き直したんですけど、その前のやつ、前倒しになってますね、いつの間にか。

【山崎専任者】

7月9日のやつかな。

【森口専任者】

7月9日ですか。

【山崎専任者】

が前のね。それが前倒しになってる？

【森口専任者】

ああ、7月9日のやつがこの実施計画に載っているものよりも計画が早くなっているんですよ。私たちが何か早くしないと、次の計画に進んじゃうと、実施計画や何かの意見が受けつけられなくなるから、説明させてくれ、説明させてくれてって言われて、さんざん追い立てられてるんですけど、この実施計画……。

【小川専任者】

1月になっているんだな。

【森口専任者】

ん？ この実施計画に書いてある……。

【小川専任者】

1月。

【森口専任者】

実施計画に書いてあるスケジュール表と今現在、建設が終わったほうのスケジュール表とはおなじになるということで、間に配られたスケジュール表が前倒しになってるようなんですよ。で、いつ前倒しにされて、そんなに私たちは急いで走らされて、時間がない、時間がないって言われてるのかっていうのは、ちょっとおかしいと思うんで、いかがですか。いつ前倒しになりましたか。説明されましたか、切り上げてますという。

【片山参事】

切り上げているという説明は確かにしてないですね。ただ、事務手続き上、その手続きで進んでいたことは確かです。で、結果として、当初の予定どおりのスケジュールになっているわけですが、私どもとしてはですね、できるだけ早くですね、この施設の建設をしたいものですから、事務手続き上、早目のスケジュールを設定させていただいたということでございます。

【森口専任者】

あの、おくられているときだけね、おくられているから、おくられているからって言わないでね、進んでいるときには、私たち早く進めてますっていう報告もなしにね、進められて、ここで私たち急が

されてもね、困るんですよ。みんな忙しい時間、無理して、ここに来てるわけですよ。何でもそんなに勝手に繰り上がった計画に合わせて、実施計画の説明をさせろ、何の説明をさせろじゃなくて、もう少し話してる時間があったはずなのに、そうやって急がされたことによって、そのことにもめてた時間ももったいないと思いませんか。

【片山参事】

皆さんからするとですね、何て言うんですかね、まだ建設についていろいろな、何と言うんですか、中止も含めてですね、お考えがあるようですけども、前から申し上げているとおりですね、この場所にですね、つくらせていただくということを前提にですね、この協議会つくらせていただいています。その中での議論ですので、私どもとしては、スケジュール、早目に設定はしましたけれども、十分説明をしながら続けてきたと、進めてきたという認識でおりますので、その点をご理解願いたいんですけど。

【森口専任者】

皆さん、理解できますか。勝手に進めておいて、理解してくれって言われても。

【小川専任者】

それがね、ちょっと行政の傲慢ですよ。そう思いませんか？ あのね、今まで議論することいっぱいあるんですよ。宿題がいっぱい残っているんですよ。みんな納得しないと言っているんですよ。それをね、一つずつ説明しないで、議論しないで、もう事務手続き、早く早くと。もう善は急げはいい、悪いこっちゃないんだけど、みんなはもう疑問の思っていることいっぱいあるじゃないですか。それをとことん議論してからやればいじゃないですか。そうじゃないですか。

あのね、こう、あの、ちょっとあれだけ最初からここ建てる時は、さっきも言いましたけども、建てるのを前提にと言っていますけど、最初からこの建設はね、みんなが理解して、最初、基本合意ですよ。みんなが納得して、それが理解した後で建設着手するって最初があったんですよ。それをいつの間にか、最後はほごにしちゃって。そういう文句を受け入れたけども。だけでも、その後もずっと市長も皆さんも、皆さんの理解を得た上で、理解を得ながら進めるって言ったじゃないですか。

だけど、さっき言ったみたいに、ここでも全部決裁されてないのに、もう最終結論出したと。何だか、うんとも言ってなのに、わかりましたって言ってないのに、進んでるじゃないですか。万事がそうなんです。私、そう思いますよ。だから、スケジュールが説明もなしにどんどん先っていうのはやめてください。

私たちね、片山さん、私たちは反対してるからってということで、さっき言った、反対、納得したらば反対しませんよ。納得しないから。そもそも論から。必要ないもの建てるから私たち言っ

てるんですよ。それを理解しないんですか、ちゃんと。見てごらんなさい、あんなところに建物建てるときに、ああいう狭いところにさ、建物建つと、ちょっとうちの市長もおかしいと思う、頭。常識的には考えられないんですよ。それを無理して建てようとして。それでいまや30億と40億と言ってますけども。これについてもまだ前の議事録読みましたけども、それでも進みますと。みんなね、自分の家を建てるときには、2倍も3倍も費用がかかったら、やめるか、考え直すか、ちょっと待って、安くなってからやるか、いろいろと考えますよ。そういう考えないんですか。

以上です。

【森口専任者】

はい、森口です。えっと、岡田さんのおっしゃったように、やっぱり毎回、スケジュール表出してもらわないと、急に出てきたのが急に進んでるっていう、勝手に進められているというのを私たち、報告もされないで、一生懸命尻を叩かれていたわけですから。これからもそういうことがあるんじゃないかっていう、もうこれ行政不信ですよ。あの、毎回、出して、変更があったところについては、きっちり出していただかないと、進めるにしても、おくれるにしても、きっちり毎回出してわかるようにしといてください。岡田さん、それ書いておいてくださいね。

【岡田専任者】

書いてありますよ。

【森口専任者】

毎月で。

【岡田専任者】

当然のことと思ってますけど。

【森口専任者】

ありがとうございます。

【坂本代表者】

坂本です。何度もすいません。えっとですね、当初からこの問題は瑕疵がありますし、片山さんがおっしゃっているのはですね、まさに今、東京都の豊洲問題と酷似してるんですよ。これを建てていいというのは、市長はどこで何を根拠に建てていいというような結論を出しているんでしょうか。あの、小平市長はですね、4団体は3市共同資源処理施設を整備するに当たって、想定地周辺地域住民の理解を得ることを前提として、協調して事業を推進するということになっていますよね。で、それを建てる、建てると言いながら、前提として建てると言いながら、それは何を根拠に建てるということになっているんでしょうか。下手すれば、片山さんをはじめ、み

んな処分されますよ。東京都は8人が処分されるということになってるんですけども、それでも私はやってないとか、立場にあった者は処分されるんですから。だから、何をもって、根拠を持って建てるということなんでしょうか。どう伝わってるんですか。そこをちょっと説明していただきたいんですけども。下手すれば、虚偽表示になりますよ、あなたたちは。

【片山参事】

まあ、理解を前提にということを進めてきたんですけども、なかなか全体的な理解は、全体的っていうか、この協議会の中ではまだ理解が十分得られたとは言えないという状況の中で、再度、確認しまして、こちらの施設については、基盤施設ということで、3市の4団体の中で必要な施設ということで事業を推進していくと。その中ではですね、皆さんの理解を得る努力を継続して、建設するまでではなくですね、建設後も操業にかかわっても理解を得る努力を続けながらですね、この事業を進めていくようにという指示を受けておりますので、その確認のもとに私どもは動いております。

で、何度も申し上げますけど、この協議会はですね、皆様には不満かと思えますけれども、施設を建設するということを前提にお集まりいただいています。今、論点になってるのは、1つが必要性の問題。何で必要なんだという御意見。それから2つ目が立地の問題。なぜこの場所なんだという問題。それから3つ目が環境が心配。この3つの軸で議論がされてると思うんですけども、この1番目と2番目についてはですね、既に私ども、意思確認をしておりますので、皆さんの理解を得られるようにですね、今後とも継続して努力していきたいと思えます。幸いなことに、3番目につきましてはですね、皆様の意見は十分、十分とは言えませんが、最大限、取り入れさせていただいてですね、施設の性能についてはですね、まず日本一であろうというところまで持ってきておりますので、その点については、あの、そういう状況の中で、立ち位置がですね、そういう中で行政が動かさせていただいておりますので、その上での議論をお願いしたいと思います。

【坂本代表者】

すいません、今の意見に対して、1番も2番も完全にここに同意も合意も得られてないという事実はご存じですよ。うその表示をしてるじゃないですか。市長にうそを言っているじゃないですか。あくまでも、仲間内では建てるっていう前提かもしれないですけども、だれ一人として、同意しました、合意しましたっていう人がいますか。それと、その必要性についても、立地条件にしても、だれもそういうのを認めてません。それで、今やはり、その何ですか、最初、この前も話しました環境省、農水省、経産省、3社合同でのワーキンググループで、廃プラに関する調査委員会を設けて、審議会を設けてますけれども、そこでもプラスチック、ペットボトルに

については、もう民間のほうに完全に委託しようというようなことを、委託しようというか、業者を任せようというようなことを検討しているわけなんですよ。

で、つくった途端に、はい、もうペットボトルについては何も自治体でやる必要はないっていうようなことになった場合とか、そもそもですね、立地条件にしてもですね、国交省の通達の中では、こういう住宅地にあるのは工業地域であっても、1日の処理量というのはものすごく限られた範囲内でしか建てられないことになってます。それは通達を調べればよくわかりますけれども、とてもじゃないですけど、建てられないです。ああいう狭いところ。しかも、住宅に囲まれたところでは。そういうところは、あなたたちはそれで給料もらって仕事やってるわけじゃないですか。何もそういうのは調べないんですか。むだな経費を、あの税金を使ってやるつもりですか。

だから、3番目のね、環境影響調査っていうのは、たまたま環境省の廃プラ施設の補助金の、補助金がアプライしたから、そこでいただくためにはこういう調査をやりなさいっていうのは、これはもう全国一律で出してる話の一部ですから。それは途中で1期目、2期目まではできると思いますよ、これは。全国出してるわけですから。調査はやりなさいになってるわけですから。3回目、4回目になって初めて、補助金とか、あの見えてくるんですけども、3回目、今までは幾らかかったかわかりませんが、1,000万か2,000万かかったかわかりませんが、それについてはもう使ったからしょうがないでしょう。これは補助金適正化法でも許される範囲です。ところが3番目、4番目の金にかかる問題になってきたら、とてもじゃないですけども、住民の同意が得られないので、できませんっていう、取り下げるといことは十分考えられるわけです。そこを考えなければ。むだな努力をして、市長にうそついてまで、管理者にうそついてまで、いや、合意が得られてますと言ってまでやるつもりですか。それはもう処分覚悟でやるつもりですか。うそをつきました、後で言っても遅いですよ。我々はこれだけヒントを出して言っているわけじゃないですか。

それとですね、前回の議事録の30ページ、いみじくも田中さんがおっしゃったことはものすごく大事なことなんですよ。えんとつの出た記事。これだって、とんでもない話ですよ。建設するとか。市民にうそをついてる、全部。こういうのは撤回したほうがいいんじゃないですか。だからね、こういううそで、うそにまみれたようなことはもうやめたほうがいいと思いますけれどもね。

だから、ここでこれだけ三十何回も協議会を開いたけれども、それでも住民の同意を得られることができないと言え、これはもう途中で、もう三、四年たって、四、五年たって初めて見直して、見直した結果、やっぱり煙突、焼却炉のほうに重点をシフトさせて、これはしばらく様子

見にしようと。小平市も民間委託して、組成分析しなくても、金出ししなくても、実際がわかるわけですから。だから、民間委託してやったほうがいいんじゃないですか。一番それが理想的だと思います。それで、焼却炉の形態が例えばサーマルとかにかわった場合には、全く不要な施設になっちゃいますよね。東大和市なんかは、待機児童なんかはもう東京都内の26市町でワースト3の中に入っているんですよ。そういうのを整備したほうがよほど利口じゃないかなと思ってますけども。

とにかく、前回の議事録の30ページの田中さんの、田中代表者の一番下の段ですけれども、3行目からですけれども、見直して、じっくり考えたほうが良いと思いますよ。こんなものつくってどうするんですか。

以上です。(拍手)

【森口専任者】

それと今、片山さんは、問題、きっちり把握されていて、なぜその施設が必要なのかと。なぜここなのかということについては、もう説明し終わっているというような口調でお話をされました。そして、3番目の環境については、日本一のものになると。岡田さんのおっしゃっている世界一には届いてないようですが、日本一にはなる予定だということをお話されていますが、1番と2番の、なぜ必要なのかと、なぜここなのかということについては、もうほとんど説明し終わっているような印象にとれる言葉でした。

ところが、このところで、やっぱり栄の方や何かがおっしゃっていましたが、毎回同じ答えしかないと。それで回答したってということになっているんだったら、それしか答えがないんだったら、話にならないじゃないかっていうことを、前か前の会議録でおっしゃっていました。私たちも、その今まであなたたちがしてきた回答に対して、納得がいかないし、理解できないのでおかしいじゃないかっていう質問がずっと出ているんです。それなのに、今、こういう場において、まだそのことについては、質問はもう4団体で何回もしてて固まっているという言い方であるならば、それを4団体の最終回答としていただければ、協議会のほうで、その回答については、私たちは評価できないっていうふうに、協議会の結論を出すべきだと思います。皆さん、どうですか。(「はい」と発言する者あり)

ずっと同じ会話だけしてて、進まない、進まないって言っていて、ここは建設のためにあるんだから、座っているのが当たり前っておっしゃいますけれど、じゃあ、ここにいる人たち、こんだけむだな時間をつくって座らせられているわけですから、おんなじ話のおんなじ説明ばかり繰り返されて、これで私たちの説明はできてると思うとおっしゃるんだらば、その説明じゃ私たちは納得がいかないと。協議会としては、これは納得ができる説明じゃないし、評価できな

いということで、ここで、もうここへ座らないで、建設の部に座る価値はなしとして、皆さん、解散すべきだと思いますよ。本当におんなじ説明聞くたびに座ってきてるわけじゃない。それなのに、おんなじ説明したことについて、自分たちで自己評価をして、これで説明し終わっている、反対してる人はいるけれど、私たち4団体はこれで説明し終わっているんだっていうほうにしかとれない言葉がありましたんで、おんなじ説明をされるんでしたらば、もう私たち、その説明に対して、協議会としての評価を出す時期だと思います。これだけおんなじ説明されたら、皆さんも評価出したいですよ。いいですか。出さないで、このまま同じ説明を聞き続けますか。

【小川専任者】

評価出されないんだもんね、これね。

【町田専任者】

回答してくださいよ。明確な回答を。

【小川専任者】

一言だけ言わせてください。さっき、片山さんが協議会は建設を前提にしているからという話、しましたけども、そのもっと前には、周辺住民の理解を得た上で建設するということもあるんですよ。それで、それで進んできました、今まで、じゃあ、建設を前提にしたとしても、じゃあ、ここで納得できる、そういう、まあ、岡田さんが言った世界一の建物建てるような、あ、いいな、これ大丈夫だという話になればいいんだけども、そうじゃないと言ってるんですよ。そうしたら、前提、建設建てるのは前提であっても、それができなくなる話はまともじゃなかったら、これはもう一度考え直すべきだと私はそう思いますよ。だから、協議会で打ち合わせしてるんじゃないですか。だから、それをちゃんと解説してください。

【森口専任者】

岡田さん、きょうの私の言いたいことで1つ、書いていただきたいんですけど、協議会なんです、回答をもらっただけで終わらせないで、協議会として、その回答が最終回答であるならば、協議会はどういうふうに判断したかっていうのは評価すべきだと思います、協議会として。その辺を諮って、邑上会長に諮っていただきたいということと、こういう意見があったということを書きをお願いします。

【岡田専任者】

あのね、すいません、今は少なくとも建設の部の、この資料2枚の話なんです。これ、今、そもそも論のほうに入ってますよね。ですから、これ一旦、これはこれで、私のやつは、ここの確認のここから話が始まっちゃったんですけども。

【森口専任者】

岡田さん、私、その岡田さんのところにも審議最終日ってというのが書いてあるんで、審議が最終になったときには、評価を入れてほしいっていう意見です。協議会の。

【岡田専任者】

評価を入れてほしい？

【森口専任者】

うん。例えば、22番のプラスチックについては、回答をしたっていうふうに8月6日に配ってるっていうふうには書いてるんですけど……。

【岡田専任者】

これ思っていないということですね。

【森口専任者】

うん。

【岡田専任者】

ですから、まだ回答は欲しいということですね。

【森口専任者】

回答が欲しい。もし最終回答であるんだっただらば、そちらが最終回答っていうことで言ったときには、みのもんたのファイナルアンサーじゃないですけど……。

【岡田専任者】

ああ、そうね。

【森口専任者】

そうなったときには、こちらのほうにもそれに対して、評価するかしないかっていうのは、協議会として判断するべきだと思う。ここは衛生組合なり、4団体が回答して終わる場所じゃなくて、協議会なんで、協議会の判断が必要な場所です。

【岡田専任者】

最終日というところね。

【白倉課長】

すいません、あ、会長、いいですか。いいですか。すいません、今、森口さんがおっしゃられている、その22番のところなんですけど、ここの部分については、山崎さんに確認すると思うんですが、そのときに一度やりまして、その会の最後に、今回のこの提案、質問した内容については、これでオッケーですと、了承ですって、たしか話が終わりまして。で、改めてある場合は質問し直すという話で、この会はたしか終わったと思うんです。だから、そのあたり、ちょっと

山崎さんのほうの、たしか、そういう話あったと思うんですけど、そこだけちょっと確認したほうがいいのかと思います。

【森口専任者】

そういうときでしたら、山崎さん、継続審議にしてもらわなきゃ困ります。

【山崎専任者】

失礼しました。

【森口専任者】

そこで決裁しちゃいけません。継続審議にして、「ほかの欄にて」って書いてください。それでいいですね。

【山崎専任者】

単品……、単品と言うとおかしいですけども、要するに、移行量の表みたいなのを作ったという資料ですよ。

【白倉課長】

それだけ後で出しましょうっていう話しでした。

【山崎専任者】

それについてはまあ納得したと。

【坂本代表者】

資料に……。

【山崎専任者】

ただ、ごみ量予測については、私は全く納得してませんので。そういう広い意味で言えば、だめかなと。単品はいいけども。単品はわかります。こうなりますよ、24年のあれで、組成分析の結果から31年は何、30%、35年は50%になるっていう数値を見たやつには、関しては一応納得しました。

【森口専任者】

そこ……、森口です。そういうのも、きっちりここに書いて、終わったときにはそういうのを残してください。あなたよ。あの、えっと、そういうときにも、今、継続で終わりっていうんじゃないくて、単品については納得したけれど、ほかに審議するとかっていう、ここを残さないと、これでもう納得したかのように聞こえるので、それは残すようにいたしませんか。

【山崎専任者】

ああ、いいですね。わかりました。

【森口専任者】

どうですか。いたしませんか、岡田さん。だめ？

【岡田専任者】

じゃあ、そしたらね、組合からこれを私に送ってください。それ、山崎さんは、この項目について、まだ継続検討という文書をください。そしたら、私、入れますから、ここへ。いいですか。

【山崎専任者】

あの、申しわけないんですけど、岡田さんのつくってくれたやつと私のやつ、別々なんですよね、資料。ですから、私、すいません、岡田さんのほうは建設に関するものだと思って判断してるんで。で、私が出してる、まあ、これも含めてですけども、また今回回答もらいましたけども、こういう資料としてもらってるんですよ。だから、両方書かなくちゃいけなくなっちゃうのかな。

【森口専任者】

えっと、森口です。今、建設の部のほうで出た話ですから、山崎さん、建設の部のほうで書いたほうがいいんじゃないですか。それはそもそも論にやる必要はないと思います。

【山崎専任者】

もともとそもそも論だとは思ってないんです、私。

【森口専任者】

ええ。建設のほうだったら、建設の部のほうで書いて、分けないと、何かそもそも論にみんな回されて、建設の部のことがおくれてるっていうこと自体、納得できないんだと思いますよ、衛生組合が。

【岡田専任者】

じゃあ、私に送ってください。その後。残ってる項目。それから、この資料、私にもください。そしたら、入れ込んでいきますから。それで、これでいいですかってやりますから。両方送ってください。で、一応、これと、それからもう1枚のほうは別途回答しますんですね。この裏の、私の裏のやつは。

【片山参事】

はい。

【岡田専任者】

きょうは、まあ、ちょっと。別途、回答ということで。とりあえず、きょう、組合からの提案だけは聞きましょうよ。そういうことになっているんだから。それから、そもそも論に行くという形にしないと話が輻輳しちゃって、どうしようもない。また仕切りました。すいません。

【森口専任者】

まだ何か。

【山崎専任者】

いやいや。

【片山参事】

そもそも論行きますか。

【邑上会長】

この後、どうするんですか。どういう予定ですか。この裏をやりますか。

【伊藤課長】

そもそも論で裏をやるのであれば……。

【片山参事】

裏をやっても結構ですよ。

【伊藤課長】

はい。

【岡田専任者】

きょうの資料No.1からのやつ。

【邑上会長】

これは。

【片山参事】

これはそもそも論ですか。

【邑上会長】

これは違いますよね。もともとの出してきたる資料の内容で、難しいでしょうという内容ですね、これはね。

【伊藤課長】

でも大分時間は。お約束の時間は過ぎてる。

【邑上会長】

邑上です。この別の2枚、とじている、山崎さんの名前が入っているものは、今もお話もありましたけれども、もともとあった説明に対して、要求とか確認をしてるものだっていうことなので、岡田さんがまとめてくれてるものに合わせ込む内容だよという話でしたね。今、そもそも論になってるって、こちら言われたんですけど、そうじゃないんですよ。

【山崎専任者】

ええ。

【邑上会長】

ですよ。なので……、これはそもそも論じゃないので。もしそういうものがあればいいですけども。もともとの内容……。

【伊藤課長】

これをまとめ上げるっていう。それで。

【邑上会長】

後半に入るっていうことですか。時間ね。それともともと光橋さんにこれの話やるって言ってない。言ってない。

【伊藤課長】

それはちょっと言ってないですけども。

【邑上会長】

邑上です。もともとの予定だと、この1回、前半後半ということで分けて、で、後半はそもそも論のような内容でやるということだそうなんですけども、今回、配られてる資料、その1枚物の裏側のほうが、もともと光橋さんのほうから提示されてる内容を入れてるもの、この辺をやろうということで事務局側のほうで用意していただいているということなんですけども、これ、どうですかね、光橋さんのほうに話は多分行ってない状態だということなので、何かこれ、きょうの時点で何かお話、こんな状態でお話、何かできます？

【光橋専任者】

えっと光橋です。全然準備してなかったもので、今これ初めて見てるんですけど、これ、私がどうか、提示した順番のやつをそのまま書いていただいているんですかね。

【片山参事】

はい。

【光橋専任者】

ということですね。

【片山参事】

はい。

【光橋専任者】

何か幾つか進んだような記憶があるんですが。

【片山参事】

進んだ？

【光橋専任者】

やってなかったでしたっけ。

【片山参事】

ああ、1番はやったと思います。

【光橋専任者】

1番だけでしたっけ。

【片山参事】

はい。

【光橋専任者】

で、書いていただけてないから、じゃあ、もう1度、1からやるということですか。

【片山参事】

まあ、あの……。え？

【片山参事】

2番はやった？

【光橋専任者】

まあ、忘れてますんで、やっていただいて全然結構なんですけど。前もやったんであれば、もう回答書いていただいて、それまた見直すっていうほうが早かったんだと思うんですが。

【片山参事】

ああ、わかりました。ちょっと会議録を確認してみます。すいません。

【光橋専任者】

そうすると、きょう、やりましょうかという話ですね。

【森口専任者】

前回、回答いただけることになっているのの回答はいただけないんですか。ランニングコストを松本課長が今回までに話してくれるっていうことだったと思うんですけど。これはスケジュールの説明に、前回のスケジュールの説明やってるときに、えっと、建設費とともに、次までにランニングコストを提示していただけるっていうことで宿題になっていると思うんですが。

【片山参事】

ランニングコストについてはですね、あの、まだ業者さん、決まってませんので、正確には出ませんが、今のところ、2億から2億4,000万と。年間ですね。そのぐらいの予定で見積もっ

てはいます。ただ、業者さん、今回、高性能の比重差選別機、ちょっと専門的になりますけれども、分別する機械ですね、そちらを入れるものですから、人工が下がると。必要な人間が少なくなるということから、多少そこから下がるのかなっていうふうに考えてますけど。幾らかということ、今申し上げられません。

【森口専任者】

ああ、それはいつわかることなんですか。

【山崎専任者】

組合議会の前にわかるってということですか。

【片山参事】

運営費はわからないですね。運営費は建設した後の問題ですから、建設が終わるのが三十……。

はい？

【山崎専任者】

連絡協議……、ああ、組合議会の前に、ランニングコストがわからないと困るっていう話を松本課長のほうからされてますけども、それに対して、そんなことないよ、できないんだよっていう話は、組合の方からの返事はなかったですよ。ということはできるってということだと判断するんですけども。

【片山参事】

ですから、おおよそで答えさせていただいた。

【山崎専任者】

おおよそだとすると、建築費が高騰したのと同じじゃないですかって、もうそのときで、話してるんじゃないですか。

【片山参事】

まだ先ですからね。建設して……。

【山崎専任者】

まただますっていう松本さんが使いましたけど。

【片山参事】

運営するまでには時間が……。だますつもりはないですよ。

【山崎専任者】

それと同じなんですよ。だから、そんなのわかってるんだったら、その場でそれは出ませんって言えばいいじゃないですか。

【片山参事】

ですから、一定の幅をもたせて見積もって……。

【山崎専任者】

言っていないじゃないですか、何も。松本課長が、次の組合議会のときまでにランニングコストが必要だって言っているのに、組合の方々って、何も言っていないじゃないですか、そんなことできないとは。

【片山参事】

ですから、2億から2億4,000万で見積もっているという見積もりを……。

【山崎専任者】

だから、それが確定したものなんですかって言ってるんですよ。

【片山参事】

それは確定はまだ業者さんが決まってませんので……。

【山崎専任者】

だからできないということでしょう。

【片山参事】

ええ、できません。

【山崎専任者】

正確なもの。だったら、その場で言えばいいじゃない。

【片山参事】

ただ……。

【山崎専任者】

あなたたち、何も言っていないじゃないですか。松本課長の発言に対して。それは認めたくていうことになるんですよ。うそばかりじゃないですか。

【森口専任者】

私、情報公開請求に東大和市役所に出向きました。それで、そのとき、松本課長に言ったらば、東大和のほうには全然衛生組合からいろんな情報がおりにきてないと。私は何も知りませんと。で、私、その場でも怒ったんですけど、何も知らない人が発言しないでほしいと。そしたら、組合がここで発言しないから松本課長が一生懸命発言してるんだと思うんですよ。私たちがここで相手にしてるのは4団体なんですか、東大和なんですか。各市についてのごみについてご質問させていただくときには、当然各市がお答えになって結構です。ですけど、そういうまとまったことについて、私たちは4団体は2品目の、2品目にする決めたときに、4団体として、一丸に

なって市民の説得に当たると、説明に当たるといって、ここに4団体、首そろえてるわけですよ。それなのにね、東大和市は知らないよ。

で、知らない人だけがたくさん話して、時間使って、それで肝心の、知ってて、もうわかり切ってるようなことを何も言わないで片山さんがそこに座ってらしたと。そんなばかな場所に私たち座らせられてて、意味がないでしょう。私たち、ボランティアでここに座ってるんですよ。あなたたち、仕事で来てるんですよ。で、私は今わかっているから、2億から幾らだって言ってる、前回何もしゃべらなかつたのは確かなんですから。前回、松本さんだけでお話しされて、松本さん、市役所で切れてました。何の情報も東大和市には来ないと。全部衛生組合だけで持っていると。

で、もうここで4団体が、他の市、小平市さんとか村山さんも、組合さんからそういう情報が行ってなくて、何も答えられないんだったらば、まず4団体が足をそろえることから、皆さんで会議持っていて、それから私たちの前にそろっていただけませんか？ そうしないと、時間、むだですよ。私たち、ただここに座らせられて。答えもできないようなことを松本さんの話、聞かされて。そのとき黙ってた片山さんが今言ってる。こんなばかなことで座らせられてる協議会は何なんですか。それで建設するんだから、あなたたち、それを納得して、ここに座ってるんですよって言われても困りますよ。まず4団体、きっちり情報を横に流して、それから私たちの前に4団体そろって出てこれないんだったらば、一度、考え直してくれませんか？ それがきっちりそろうまでは私たち、ここに座ってたって、時間のむだだと思っますよね。どなたかご発言がありますか。なければ、組合さんは、まだ全然情報を3市におろしていないよ。3市の方は何も知らないということですよ。3市の方で知ってる方がいたら挙手してください。

【片山参事】

何についての情報なんですか。私どもは4団体、会議を設けて、その中で意思疎通を図っていますんで、必要なものについては、4団体で協議して、決めさせていただいています。きょうみたいな、文書で回答するものについてははですね、あらかじめ協議をしてですね、文字にして、お示ししてるわけですよ。だから、何か知らない、具体的な理由が、理由というか、ものがわかれば、私どもしか知らない事実も確かにあると思っますし、東大和市さんしか知らない事実もあると思っますよね。

【森口専任者】

私が今言うのも何ですから、前回の会議録を、松本さんの発言を十分お読みいただいて、東大和市が求める情報を流していただけますか。

【片山参事】

はい、それは今でも流しているつもりなんですけれど、もし足りないものがあれば、どんどん

流していきたいと。

【山崎専任者】

でもそうだとするとね、松本さん、そういう発言しないんじゃないですか？ 流してる、流してるって言うんですけども、流してる、受け取ってるものはね、そういう発言します？ おかしいでしょ。流してるって言うんだったら、受け取ってるほうも受け取ってるわけですよ。けども、情報が流れてこないっていうのは、結局流してないんじゃないの。武蔵村山市さんとか、小平市さんはどうなんですか。前回のときに、松本課長がそういう発言されました。それに対して、ほかの市の方、担当の方は、何も発言されませんでしたけども、実際どうなんですか。

【小川専任者】

ちゃんと教えてくださいよ。

【白倉課長】

情報のね、今言ってる、何の情報に対して、我々のほうが受けてるか、受けてないか、その具体的なものがあれば、確かに聞いてないものは確かだと思います。で、ただ、今、片山参事のほうが話したように、こういうふうに出すペーパー、ありますね。回答文。そういうものについては、我々は当然内容は見させていただいていますので、この会議で、いきなり、いきなりって言ったら変ですけど、出た、事前にない情報等の質問が出たものに対しては、確かに我々のほうでも知らないものというのはあると思う。ことは事実です。

【山崎専任者】

武蔵村山市さんもお願いします。

【有山課長】

武蔵村山市です。今、小平市白倉課長が言われましたとおり、こちらのほうに流れてない情報もまあ、あると思います。

【山崎専任者】

流れてないのもある。ということは、結局は流れてないということですよ。3市、組織市3市が情報、流れてないよということだったら、流してるって言うほうがおかしいでしょ。

【白倉課長】

すいません、それは私の言い方が悪かったかもしれないんですけど、あの、流れてないというか、何を流れているか、流れてないかというところが、やっぱりわかってないと、全てが何も流れてないというどうかという……。

【山崎専任者】

前回の松本課長が発言した内容ですよ。議事録に書いてありますから、それについて答えてく

れればいいです。

【小川専任者】

47ページの議事録、読んでくださいよ。「正直言って、私ども組織市も今具体的なものは持っていないんですよ」って言ってるじゃないですか。

【山崎専任者】

それに対して、私は「んじゃ、組合だけでやっていいんですか」って質問したら、片山さん「はい」って言ったんですよ。ということは、両方流してないっていうことじゃないですか。

【白倉課長】

前回の金額の後での会議の話ですかね。それについては、具体的な話は確かに聞いてないです。

【山崎専任者】

流してないじゃないですか。

ついでですので、ランニングコストについての考え方っていうのもどうですか、小平市さん、武蔵村山市さん。やっぱり、組合議会の前に必要だよという考えですか。それとも必要ないっていう考えですか。

【小川専任者】

今度、22日に議会ありますよね、組合の。私も傍聴に行こうと思いますけれども、そのときに予算の、補正予算の問題も出ると思うんですよ。そうすると、そのときにランニングコストの問題も出ると思うんですよ。そのことをさっき言ったんでしょ。だから、それをね、ここでも連絡協議会の面々にもね、ちゃんと説明してくださいよ、それをね。きちんと。さっき、おおよそで。そうじゃなくて。

本当はね、ここでそういうのも出るのも、まだ業者が確立してないから出せないということなんですけども、これを何を根拠にしてね、おおよそのことを言ってる。それで、後で、ああ、間違えましたって、もっと多くなりました、少なくなりました。少なくなるのは、まあ、いいんですけども、そういうことを言われると、ほんとにずさんな、まあ、東京都の豊洲問題でもないんですけども、ほかのところを見て、同じようなことをやってるんですよ。だから、そういうことじゃなくて、ちゃんとここではきちっと出してください。それで、そんなにかかるんだったら、またね。

まあ、私は前回の協議会に参加しなくて申しわけないんですけども、議事録を読みまして、全然回答にもなってないし、もし、構造計算とか、こんな1.5倍も2倍もなるんだったら、もっと本当はね、民間に委託した場合と公でやった場合とおおよそでもいいですから、これだけ違いますけど、皆さん、建たせてくださいと。本当にもっと市民に信を問うべきだと思いますよ。そう

思いませんか。

13億で最初やるって言ったんでしょ。それをちょっとことし入って、18、19億ぐらいになって、それがすぐもう三、四カ月もたった後に30億、40億になると。まあ言いわけはいろんなことありますけども、私、前にも言ったんですけども、市民の目をくらますような、猫だましのようなことをやらないでください。最初、安心させておいて、今度建ててみました、こんなかかりましたよと。みんなこれは税金ですよ。皆さん、生活困って今もうあくせくしてるのに、それを使うんですから、ちゃんと説明して、じゃあ、これでも建てますと。よろしいですかと。私はそういったことだと思いますよ。

だから、前から民間に委託したときと建てたときのどのくらい違うんだと。まあ、いろいろと問題、難しい問題もありますけども、おおよそでもいいから、それ建てますと。それやってくださいよ。それを前から問題提起していますけども。いろいろな口実で出せないと言って、出していないじゃないですか。

素人でもそんなの比較した人もいますよ。だから、前の、去年、2年前でも、1人当たり、赤ちゃんから年寄りまで合わせて、大体年間1人当たり6,000円ぐらい上がるんですよ。5人家族だと年間3万円ですよ。そういう試算も出た、出した人もいます。それを衛生組合とかそういうね、今は膨大なお金を使うのに、また焼却炉もつくるのに何百億って使うのに、それもあわせてちゃんと市民に提示すべきだと私は思います。

【坂本代表者】

すいません、坂本です。えっと、今、小川さん、おっしゃったとおりのことだと思います。えっと、全くね、ずさん過ぎますよね。積算にしろ、何にしろ。建設費については、当然債務負担行為を起こされるでしょうし、ランニングコストについては、経常経費が相当膨大な金額になると思います。つくらなければいいものをつくったおかげで、後年度負担というのがもう二、三十年ある間、続くわけなんですよ。だから、今後ですね、何ですか、福島原発の国民負担についても、電気量が6割ぐらいふえるというような話もあるし、福祉予算もかなり膨らんでくる。あの、何ですか、子育て予算も当然将来の国家を担う子供たちのために使わないといけない。そういうものをないがしろにしてですよ、つくらなくてもいいものをつくろうとすること自体がどだい間違っているわけなんですよ。

だから、つくりたいのはわかるんですよ。で、つくりたいのはわかるんですが、そういうのがわかってなくてやるというのは当然間違ってます。だから、この廃プラ施設というのはですね、オリンピックが終わる5年間、待たらいかがですか。5年間。そのうち情勢がわかって、当然社会の廃棄物処理についても動向が変わってくるはずですよ。省庁の審議会でも、今そういうのを

検討してる最中ですので、それは結論は出る前に、何でここで慌ててつくらなきゃいけないんですか。先もわからないのに。あなたたちが3年、5年後を予測できます？ 何もできないでしょ。だからね、国だって、長期計画、中期目標、短期計画というのをちゃんと出しているわけなんですよ。その上に立脚してやっているわけですから。もうゼロシーリングという予算の枠も40年前からずっと全くそのまんま続いてきているわけなんですよ。だから、そうでなくても、やっぱり経常経費っていうのは膨らんでくるわけですので。

あとはやっぱり市民にそこら辺を負担させるでなくて、やっぱり考えるべきは、公が考えるべきは市民ファーストなんです。市民ファーストで考えていかなければ。ごみ行政だけがやっているわけじゃないわけなんです。むだな経費は削減したほうがいいと思いますよ。だから、5年待ったらどうですか。5年。5年って行って、あつという間に来ます。もうここだって、やがて3年になりますよ、この協議会だって。だから、もうこんなのはね、やめたほうがいい。森口さんがここでもう出ないっていうのは、同意も合意も得られなくなったという意味で、もうやめましょっていう話をしているわけなんです。意味わかります？ そくら辺。幾らね、詭弁を並べたってね、うそはうそなんですから。

以上です。

【山崎専任者】

クロスフォートの山崎です。前回の協議会のお話、出たと思うんですけども、何て言うんですかね、ランニングコストについては、実施計画の中で出すよという発言をされていますよね。だけど、この実施計画には全然載ってないですよ。これ、またうそですか。また、その場しのぎの説明をしたということですか。ほんと、こんなんでもいいの？ほんと、あきれますよ。そういう説明をね、平気でして。で、実際できるのかっていったら、できないじゃないですか。できてないじゃないですか。長期包括契約するとか何とか言ってる時点で、このスケジュール見たら、その組合議会までに、そんなの、はっきりした数字が出るわけじゃないじゃないですか。そういう、過去に説明、自分で説明した内容で間違ったこと、ちゃんと訂正してないじゃないですか。言っぱなしですよ。間違っようが何してようが、言っぱなし。こんな説明ってあります？

ひどいですよ、これは。

【邑上会長】

邑上です。すいません、ちょっと今の内容、もう一回、ちょっとかみくだいて言ってほしいんですけど。えっと、その契約する前に、金額的なものとかがちゃんと固まって、承認とかおらないと契約できないんじゃないかって言ってます？

【山崎専任者】

あ、この片山さんの発言ですか。

【邑上会長】

あ、その今、そこおかしいんじゃないかって。

【山崎専任者】

あ、そうです。

【邑上会長】

そういうことじゃない。

【山崎専任者】

そうです。あの、実施計画で、そのランニングコスト出しますよという話をされたんだよね。

【森口専任者】

前に？

【山崎専任者】

前にね。

【森口専任者】

昔？

【山崎専任者】

うん。前回の発言の中で。

【森口専任者】

前回は、今回までにするっていう発言。

【山崎専任者】

ああ。だけど、結局……。

【森口専任者】

片山さんじゃなくて、えっと、松本さん？

【山崎専任者】

いや、そうじゃなくて、過去に実施計画までに……。

【邑上会長】

それは大分前の話をしてるんですね。大分前の話ですよ。

【山崎専任者】

そうです、そうです。いう説明をされてますよね。

【小川専任者】

もう忘れたんじゃないの。

【森口専任者】

お互いこんだけ長いと、もう一遍、会議録を洗うとか。

【小川専任者】

そう。会議録を探させる。

【邑上会長】

ちょっと今、あの、ちょっと前回、私いなくて申しわけないんですけども、前回の議事録、見てる限りでは、今回の建設費が見積もりですかね、そのかなり上がっているんで、まず、その説明が、その上がったことに対して、議会の承認が得られているんですかっていうことを確認して、衛生組合議会は、これから、22日でしたっけ、にやろうという話ですね。で、各市はその後なんですかね、ちょっとそこは詳しくはわからないですけども。当然そのときにはいろいろ説明が要るよねみたいなことは書いてあるように見えました。その先ほどの13だか、幾つから18とか上がって、さらに30とか40と上がるのに、上がりました、で、そうですか、じゃあ、はいって言って承認って、普通はあり得ないねってということが書いてあったと思うんですね。

なので、当然説明があると思うんですよ。それはもしかしたら議会に説明するから、今回、我々にはできない、今はできないということで、今回、説明がないなら、それはそれでまたその次でもいいとは思いますが、当然議員、衛生組合議員、衛生組合議会に出てる議員を納得させる、納得してもらわなきゃいけないので、多分それなりの資料を出してくると思うんですね。だからそれは次、待つと。

で、えっと、建設費のほかには、当然ランニングコストっていうのが、これから建設されるとすると、何十年とかかってくるわけですから、それがどうなるかっていうことも当然知りたくなるわけですね。なので、今までの計画のランニングコストはこうなってる、今の最新ではこうなってますというのは当然提示されるだろう、説明も含めて提示されるだろうと思ってますので、一応見てる限りだと、きょうのこの場には説明できないと言ってたんですね。だから、きょうは出ないでいいんですね。だから、次回にはちゃんと出てくると思います。

その説明内容がおかしければ、多分衛生組合議会、通るとは思えないので、通るんだったら、ちゃんとしたものが出てくるだろうと思いますので、それは次回の連絡協議会に提示されるってということで、その部分は待てばいいかなと思います。

そういう理解でいいでしょうか。

【山崎専任者】

多分、組合議会の議案の中には、ランニングコストは多分入ってこないんじゃないかなと思うんですよ。

【邑上会長】

ほう。

【山崎専任者】

わかりませんが。

【小川専任者】

それはわからない協議じゃん。

【坂本代表者】

会長、よろしいでしょうか。

【邑上会長】

はいはい。

【坂本代表者】

多分、会長のおっしゃったとおりだと思いますけれども、片山さんの説明ではですね、当初予算で18億とか、13億か18億で議会を通してから、今度の22日の議会でも、まあ、相当のうてんきな人だったら、ああ、それでもいいよということで、補正予算で通すということなんですよ。補正予算で。こんなのが補正、本予算よりも補正予算が多いというのは聞いたことないんですけども、まあ、そういうので通すというような意思があたりだそうですね。ただ、その中には、将来見込まれるランニングコストも何も入ってない。それと、そのコストについては、業者に要するに投げてるんで、それが出ないとわからないと。まあ、何ですか、手の内を全部明らかにして、その業者に投げてるわけですので、それが圧縮してというのは、30億、40億か、どれだけ何を圧縮して、それだけになるのかという根拠も恐らくきちつとは示されないんじゃないかなと思います。

通常であれば、ちゃんと積算資料とか物価資料を調べて、建設コストはこれだけとか、人件費はこれくらいということで、予算、あの、予定価格というのを立てて、あの、まあ、その何ですか、一般競争とか出すわけですけども、それもないみたいですので。たまたまやっぱり特殊な契約形態で、特命随意契約というわけのわからない契約でやるみたいですので、それもありかなと。ただ、議員さんが、しっかりした議員さんがいなければ、そういう、もう通るかなというのの心配もあります。だから、よほどしっかり、議員がしっかりしてないと、のうてんきに、ああ、13億から35億？ いいんじゃないのって言って、補正で通すのかと思うと、何か今後がぞつ

としますよね。気持ち悪いです。

以上です。

【小川専任者】

もう一言言わせてください。簡単なんですけどね、私も商売やったことありますけど、商売やる時には、建物で建てて、それでどのぐらい売り上げて、どうして、こういう費用かかっているのを計算しますよ。今度建てるときにも、ランニングコスト出せないって言うんだけど、大体の予想で、じゃあ、このぐらいとみんな立てるんですよ。それをおおよそでね、おおよそって、ちゃんとした根拠なきやだめですけども、その多少のずれはあるんですよ。

で、今まで行政側は一貫して、業者も決まってない、何も決まってない、だから出せないという一点張りなんです。だけど、仕様書とか、大体のおおよそで出せるじゃないですか、それは。それを出せないっておかしいです。私、商売やりましたから、そのぐらい、建てて、これからのぐらいかかるか、やってみてもわからないと。やってみたと。多くなつたと。もうそうしたら倒産じゃないですか、ここも。まあ、みんな商売してた人、大体そういう予算を立ててやるんですよ。だから、片山さん、そういう言い方は、私はちょっと理解できません。

【伊藤課長】

よろしいですか、すいません。ちょっと先ほど、邑上会長もおっしゃっていただいたんですが、我々、この場です、議会在控えているので、お話ができないというところなんです。ですので、議会でですね、議員さんたちにしかるべき説明をしていくことを考えております。ですから、きょうの時点では、ほんとに歯切れ悪くて申しわけないんですが、そういう細かいお話をできないということで、ご理解いただきたいと思うんですが。

【小川専任者】

理解できないね。

【坂本代表者】

ざっくりした形で、この前も話でも、35億とか40億という、これは山崎さんのおっしゃっているご意見ですけれども、概算でこういう、これくらいになりますというのは話してもいいんじゃないですか。何か全部秘密主義的にそういう話をしてるんですけども、ざっくりした形で、30億、40億というのは出てるんですから、それから大きく乖離するということはありませんよ。そうじゃないですか。

【伊藤課長】

30億から40億というのは、当初業者さんから出てきた見積額ですね。その見積額に対して、我々はおもとの予算額と離れてたわけですから、そこをこう何とか、こう埋める？ 予算

内におさまれば、当然ね、よかったわけですけどというところで、その作業をずっとしてきたということですよ。

【坂本代表者】

それはわかるんですけどもね、クリーンルームをつくるわけではないわけですけども、必要最小限のスペックでやっても30億、40億。そこで下手すれば、その何ですか、杉並のあの中継所みたいな、ああいう形で、スペックを落としてしまったら大変なことになって、後に上げたら、コストがものすごくかかったというようなこと。そういうことで、今は廃棄されてるんですけども、まあ、そういうことも考えられるわけですね。だから、もうそういうのはね、説明する以前に、もうやめたほうがいいんじゃないかなということ、一回提言したほうがいいんじゃないですか。

【森口専任者】

それを……、あの、ちょっと話が飛ぶんですけど、建設の部に関することなんですけど、1つ、この30億と40億の中に入っているかどうか確認させていただきたいことがあるんですけど、よろしいでしょうか。いいですか、会長。

【邑上会長】

何を。

【森口専任者】

以前、6品目でつくったときに、緑葉化と言うんですか、あの、えっと、敷地内の緑地が何%かというのがあって、それが本当だったら、2品目になったら、敷地というのは狭くなってなきゃいけないはずなのに、その床面積が、1階フロアがほとんど6品目のときと変わらない状況で出てるんです。で、6品目のときには、地面の上だけでは、その緑化する場所が足りなくて、屋上に緑化をつくるということがあって、その屋上に緑化するために、その屋上緑化部分に対してのフロア、屋上、丈夫につくらないと緑化ができないと。そういうこともあって、建設コストが6品目のときには上がったんですよ。

そこまでは、皆さん、何となくわかりました？ あの、えっと、地面のところでは緑化するところが、面積が足りないんで屋上に緑化をすることが前の6品目のときには決まっていて、その緑化する、えっと屋上の強さを、強度や何かのために結構建設費がかさんだというのが6品目のときの経過にあります。今回も、1階の床面積が6品目のときとほとんど変わらないので、まず、その緑化する面積が東京都の基準に今回は足りてるのかということと、屋上の緑化が、屋上の緑化も予定されていますよね。そこの分の建設コストがちゃんときちんと緑化する分が見込まれているのかということのまず2点。

そして、緑化については、高木何本、低木何本、中木何本という本数までの指定が決まっていたと思うんですけど、今回については、どのような決まりになって、その予定があるのかってことは、今、建設コストが問題になっているので、そういうことがちゃんときっちり図られているのかどうかを教えてください。

それと、コンサルなんですけれど、低木があるとかないとかのコンサルのときには、たしかパシフィックコンサルタントだったと思うんですね。で、私、この間、基本事項の、基本事項を情報開示したときには、東京都と同じ日建？

【山崎専任者】

日建。

【森口専任者】

日建だったような気がするんですけど、コンサルタント、日建さんと合ってますか、まず。基本、あ、構想案のときには。基本構想のときには日建さんでしたっけ。で、知らないわけないですよ。んで、最初の植木のことや何か計算した、6品目で、クレーン……ピット式を提案してきたのは、パシフィックさんですよ。今回また同じ提案をしてきたのは、パシフィックさんが提案してきてるんでしょうかね。それとも日建さんがやっているんでしょうかね。それもお願いします。

【片山参事】

緑化についてはですね、条例と、それから東大和さんの規則がありますので、それに基づいて行います。現在のところ、地上部で満足できるような形で考えてますけども、それに加えて、屋上部分も緑化するかどうかは今後の課題。例えば、太陽光パネルを張るとか、ほかの方法もございますので、それは建築が固まる段階では決めていきたいというふうに思ってます。

それと、コンサルタント、日建？ 日建というのはちょっとわかんないですけど。

【森口専任者】

日建じゃなかったんですか。記憶違いでしたら、すみません。

【片山参事】

私の記憶……、私も記憶で話しちゃいますけど、パシフィックコンサルタツだったと思いませんけれども。

【森口専任者】

では、もう6品目のときからずっとパシフィックさんで、ずっとピット式ということが決まっていて、そのパシフィックさんが6品目のときにつくったものを、の案のまま、プラスチックのことに関しては、またパシフィックさんがやって、それを2階建てになるっていう説明したと

いう理解でよろしいですね。同じとこ、同じ建設メーカーさんが、あのプラスチックのラインに関して提供してきて、プラスチックの量がふえたわけでもない、減ったわけでもない、減る努力もしたわけじゃない。片山さんは最初からプラスチックはもうピットで検討していましたと、ピット方式とフロア方式を説明するときに、そのようにおっしゃいました。それなのに、2品目になったときには、4団体そろって、3階構想を2階建て構想にするっておっしゃったんですけど、それはもうパシフィックさんがずっとやってる以上、そんな変わりませんよね。そういう無責任な説明を市民を集めてやったということでもいいですね。

もう1個だけいい？ それとまだ、さっきの緑化なんですけれど、緑化は高木何本、低木何本ということはありませんか。ありませんか。

【片山参事】

それはもう条例に規定がありますので、条例のとおり。

【森口専任者】

その条例のとおりっていう条例がわからないので、そういう規定がありますかとお聞きしてます。

【片山参事】

あります。

【森口専任者】

そうしますと、かなり高木に関しては、玉川上水にあるような大きな高木になると思うんです。そんなものがあの細いところに何本立つかということをお考えになってますか。

【片山参事】

これは東京都条例で定められてますから、それは守らなくちゃいけないものですから、当然考えています。

【森口専任者】

それでもあんな狭いところのところに、ヒノキだか何だかというぐらいの大きなものを植えて、何とかなるんですかね。地面だけで植えられるっていうことでしたが。

【田口部長】

片山さん、衛生組合によると、5メートルも6メートルもあるものを高木と言ってるわけじゃないでしょ。

【片山参事】

そうですね。

【田口部長】

それはちゃんと言わないと、今の考え方、それでおかしくなっちゃう。

【片山参事】

今ね、手元に資料ないんですけど、高木といっても、ケヤキの木みたいなあんな高いものを植えるということじゃなくて、一定の高さ、基準がありますので、そんなに高いものじゃないと思いますけどね。

【森口専任者】

はい。

【坂本代表者】

今、あの、片山さんがおっしゃった、東京都条例じゃないんですよ。これは東大和市条例です。で、工業地域であっても、建蔽率は60%、その余分の部分を緑地、緑化を30%しなさいということで、私も図面からスケールアップしたら、ぎりぎりもいいところ。境界側の、境界から1メートルぐらいしか緑地帯も設けてないし、そのほかのR曲線のところを面積に入れても、30%ぎりぎりだったら、やっぱり屋上緑化は必要かなと思ったんです。で、高木、中木、低木という名の規定も東大和市条例には決まっております。これほどこの自治体でも、お互いにパクってつくってますので、大体作りは一緒なんですね。ですので、そういうのを考えればね、こういうところにはできない話なんです。

以上です。

【山崎専任者】

すいません、もう1点、ちょっと。例のコンサルの話なんですけども、6品目のときと今回のときが同じパシフィックコンサルツ？ ということらしい……。

【森口専任者】

パシフィック……。

【山崎専任者】

ん？ パシフィックコンサルツというところらしいんですけども、6品目のときに、いろいろ屋上緑化等の件や何かがあったと思うんですけども、当初予算よりも、まあ、倍近くにふえちゃったと。で、そういう実績があるわけですね。で、今回、2品目のときも同じパシフィックコンサルツを使ってますよね。これ普通使います？

【片山参事】

すいません、あの、ちょっと記憶で今話をしていますんで、もし間違っていて……。

【山崎専任者】

え？ 記憶？

【片山参事】

間違っていたら訂正いたしますけど、私の記憶だと両方そうだなということですけど。

【山崎専任者】

普通使いますかね。その実績的にね、6品目のときに当初の計画してた数字の倍ぐらいになっちゃったと。実際がね、見積もり出したら。で、そういうコンサルですよ。実績として。で、それを今回、2品目のときも、同じコンサルって使わなくちゃいけないんですか。普通だったら外すんじゃないかなと思うんです。要するに甘いんですよ。そのコンサルの試算が。結局、結果として同じになっちゃってるじゃないですか。まあ、当初よりも。当初13億だったのが30から40。3倍にもなっちゃってるわけです。そういうコンサルの選定ってあるんですかね。私は何か選定ミスじゃないかなって感じがするんですけども。どういう経緯で同じコンサル使わなくちゃいけなかったのか、よくわかりませんが。私はちょっと間違っていたんじゃないかなと。ほかのコンサル使えば、もう少し、初めから例えば30億かかるとか、そういう判断ができたんじゃないかなと思うんですけども。とりあえず、何で同じコンサルを使ったのかということだけ教えてください。

【片山参事】

記憶の話でして、多分間違っていたら後で訂正させていただきますけども、プロポーザル方式で発注した記憶があります。で、業者選定審査会を設けて、その中で評価をして決めてったという経緯があります。単なる金額だけではなくて、業者の技術力を評価しながら、まあ、契約をしたという経過をたどっております。

【山崎専任者】

ですから、今、評価って言ってましたけども、結局第1回目のときに、倍ぐらいの、要するにコンサルが出した数字に対して、その実際の見積金額が上がっちゃってるわけですよ。そういう実績は評価するでしょう、当然。おかしいね、あそこが出したのはちょっと乖離が大き過ぎるよねってなったら、まずそこは外すんじゃないですか、普通は。それ以外のところで、実績のあるところを探すというのが普通ですよ。そんなに初めからやったのが2倍もなってるやつを、ここ、いいからやりましょうって考えないでしょ、普通。一般の会社だったら。だって、また間違える可能性があるわけですから。で、現実、今、間違ってるじゃないですか。3倍にもなっちゃう。だから、何でそういうのを選ぶんだか、よくわかりません。

【山崎専任者】

何か裏があるのかな。

【森口専任者】

それと、森口です。それと、今、記憶なんでパシフィックで同じかどうか分からないとおっしゃってる。だけど、これ4団体、ここおそろいになってて、情報共有してれば、使ったコンサルタント会社が4団体そろって記憶がどこだかわかりませんって、こんだけ頭数そろえてて、そういうの自体がまずおかしいですよ。異常ですよ。

【山崎専任者】

3市に聞いてみればいい。

【森口専任者】

3市の方はどこのコンサルタント使って、何が出てるか、ご存じですか。

【山崎専任者】

情報共有してんだから。

【松本課長】

すいません、東大和市です。6品目のときから2品目、えー、2品目やるに当たって、6品目のときにどこのコンサルが取ったかというのは、承知はしております。したがって、先ほど、片山さんのほうから話がありましたように、今回の2月に発行した実施計画、こちらの業者選定は、昨年、プロポーザルでやったわけなんですね。そのときに、当然、私も選定委員の一人だったので、私はそこはわかっていたので、それなりの評価をつけさせていただいたということです。ただ、結果として、委員は私だけじゃないので、その数名いる中の持ち点のトータル数の点数で最終的にはパシコンに決まったということです。

【森口専任者】

では、今、記憶が定かじゃないから、パシコンだかどうか分からないっていうのは、あの、間違いっていうことですね。

【片山参事】

資源は公募でやったんじゃない？ 不燃粗大はうちでやったんじゃない？

【伊藤課長】

それで……。

【片山参事】

そうそうそう。今の話が出た。

【山崎専任者】

ほかの市は？

【小川専任者】

ほかの市はどうですか。

【白倉課長】

すいません、6品目のときについては、すいません、まことに申しわけないんですけど、私、昨年から来てるので、すいません。

【小川専任者】

わからない。

【白倉課長】

わからないという状態です。

【有山課長】

あ、武蔵村山市です。同じ回答で大変申しわけないんですけど、私も昨年からの、このごみ対策課長になっておりますので、16年、その前ですね、ときのものについては、申しわけないんですけど、わかりません。

【山崎専任者】

じゃあ、その何とか委員会？ のときに、そういう説明はあったんですか。例えば、2品目が6品目やったときの、と同じコンサルはここですってというような説明はあったんですか。

【白倉課長】

その説明はないです。

【坂本代表者】

あの、田中さんのほうからご意見があります。

【田中代表者】

すいません、あの、先ほどからずっと聞いていたんですが、あの、5W1H、いつ、どこで、だれが、何をという順を追っていくと、今ここにいる皆さんは、3市共同事業と言いながら、3市協力してないじゃないですか。あの、本当に今聞いていて、こんなことでいいのかなって思ったんですけども、例えば、今のパシフィックコンサルツのことも引き継いでいないということですよ、前任者から。失礼ですけれども。その担当部署に来られた一番トップの役員の方がそれを引き継いでないということですよ、単純に。責任をどうとるのか。

例えば、これ今の金額でもう13億2,000万円ですスタートしてます。それで、95%は交付金、5%はこういう形っていう形で進めてきてる話なんですよね。それがどこからか30億にな

っちゃいました。あの、今、オリンピックの話をみんな聞いているから、決して、そのことが400億だ、500億だ、800億だ、いや3兆円だっていう話ですから、その中で30億とか40億という、ものすごいっちゃい話に聞こえちゃうんですが、私たちは本当に日々の生活の中で、ヤオコー行って、500円の肉が買えない、300円でとめておこうとやってる人たちがここへ集まってるんです。

で、本当に申しわけないんですが、ここをつくろうって決めて、そして、だれが決定したのか。例えば、前の東京都の、先ほど豊洲って出ましたけど、あのときも豊洲を石原慎太郎さんが下に穴があいててもいいんじゃないって話で、あと聞いた本人たちが、そこの一番重要なところを結局は埋めなくて、穴をあけてしまった。それが今問題になって、本当だったら今月の11月7日に豊洲に移動しようとしてた。今一番困ってるのは業者の方々です。

で、ここはやっぱり同じように、これだけの金額をかけてつくるのであるということが進んでるんですが、だれがいつどこでその話を決定して、だれの責任で話を進めているのか、それが全く見えません。私、ここへもう3年来てますよ。この協議会に。でも、市長がいても、課長がいても、部長がいても、いや、私たちが責任持つてつくりますって話はないんですよ。一生懸命矢面に立ってるの、片山さんだけ。本当に逆に言うと、よく片山さん、我慢してやってるなって私はずっと尊敬してますよ。本当にね、片山さんのこの意思の強さっていうのは、本当に尊敬に値します。

ただ、残念なんです、その3市の共同姿勢というのが、本当にこの施設が、例えば30億かけてつくりました、で、運営が始まりました、そのときにプラスチックが幾ら売れて、幾ら回収できて、ランニングコストはこれだけかかるけれども、このぐらいの額でおさまるんだよっていう説明があれば、だれも反対できないんですね。ところがやってみなきゃわからない、やってみなきゃわからないっていう話でずーっと来ちゃってるんです。で、やってみなきゃわからないものをつくります、30億かけてって、だれが賛成します？

恐らく、これをきょう、きょうのこの議事録を、あした一斉に東大和市民、武蔵村山の市民、それから小平市民に投げかけたときに、いいですよって反対賛成してくれる人が何%で出るか。ぜひ、そういうことで、だれがいつどこで何をどうしたっていう部分で、で、どうつくるのかっていうことで、順を追ってきっちり説明しながら、そして、各市の責任者の方々にもお願いしたいのは、市のほうが住民を説得していくという行為をしていかないと、これ結局小平の、その3市の中で、結局組合だけが悪者になってしまいます。組合はまとめるために一生懸命やってるんです。そういう中で、やはり我々に納得いく答えを市のほうから出してもらわないと。で、各市でそれをやった結果、こういう反対が大きくなって、やっぱりあの場所は無理だになっていう結

論になるか、あるいはあの場所でどうしてもつくんなきゃいけないんだよっていう納得がいく答えが出てくるのか。

もう既に、あの給食センター、でき上がって、これから東大和も運営が始まりますけれども、やはりあれだって説明会来たの、ほんとに東大和もあそこに給食センターまとめるときの第1回の説明会に来られたの、たった5人ですよ。PTAの代表、一人も来なかったです。

ですから、やはり本当にもっとオープンに。で、みんなにわかるように説明しながら。そして、こういういいものができるんだから、みんなで後押ししようねって言えるように、環境づくり、各市でもそうですし、また、片山さん1人が悪役になるのではなくって、ぜひみんなで納得いく形で、いつどこでだれが何を。それこそ東京都の豊洲みたいな問題が起きないようにしていただければと老婆心ながら思いますので、発言させていただきました。

【片山参事】

あの、コンサルの問題にやはり戻りますけれども、私どもの発注ですから、私の責任でございまして、3市がどうのということはございませんので。衛生組合発注ですから。私の記憶が定かでないということが原因でございまして、その点は、あの、そのように認識していただきたいと思います。3市に振られても、3市が答えようがないということで、そういう私どもの……。

【山崎専任者】

発注は。

【片山参事】

私どもですから。

【山崎専任者】

衛生組合だけでも、この協議会みたいなのがあったわけでしょ。今、松本課長が話したように。ですよ。

【片山参事】

ええ。

【山崎専任者】

ですから、そこでちゃんと説明したのかっていう話をしてたんです。で、その場で、松本課長はどういう判断したかわかりませんが、ほかのパシフィックコンサルツがいいですよ、いいですよと言った人が多かったから、そうなったということでしょう？ ですよ。まあ、最終的には組合が発注したということなんだろうけども、その事前の協議はあったわけですよ。だから、そのときに6品目のときのコンサルタントと同じですよというような説明はしたか、しなかっていう話も聞きたかった。でも、それはしてなかったでしょ、結局は。

【片山参事】

ですから、私の記憶がなくて申しわけないですけど、6品目から2品目になったと。6品目の業者さんの記憶がちょっと飛んじやってるものですから、2品目についてはパシコン、パシフィックコンサルタンと記憶してるんですけど、その6品目の時代の業者さんがちょっと記憶にはないものですから。

【山崎専任者】

だから、現実には松本課長の話だと両方とも同じだということですよ。ですよ。ということ、やっぱり今、田中さんが言われたように、そういった引き継ぎ、組合みずからも引き継ぎがされてないということなんですよ、きっとね。

【松本課長】

結果としては大変申しわけないんですが、今言ったとおりで。あの、ことしの2月に発行したのものについては、今年の、まあ、業者選定委員会の中で、私ども3市の課長も入った中で、最終的な中で契約は組合がしたということで、我々も当然知らない中でやっているわけではないという事は事実です。

ただ、今、山崎さんから話があったように、やはり、この事業、長きにわたって進めているというところがございまして、確かに私もこの職場に異動してきて長いとはいっても、6品目の検討時代というのは、私も全然知らないわけですね。ですから、私も職場に異動してきてから過去の書類を見ながら覚えていったというのが正直なところですので、そういったところでは、あの、もう少しきちんと、何をやるにしてもね、そういう結果的には組合の事業ではありますけれども、我々組織市がそのもとにはいるというのがあるわけなので、きちんとそのところが今までこうだったというところがきちんと理解した上で事業が踏めるようにしなければいけないなという、まあ、これは反省点です。

それとあと前回会議、先月ですね、のときの、何か嫌なことに同じぐらいの時間なんですが、ずっと黙ってて、しゃべったときに、確かに話がおりにきてないという部分、まあ、それは具体的に言いますと、約19億ということで、建設費を考えていたところが数字的にかなり乖離が金額上出てるではないかというそのところで、私どものほうには話がおりにきてないというのは事実申し上げました。んで、それは今も確かに全部おりにきてないわけではないんですが、一部はおりにきてますが、なかなか、前回話したかもしれないんですが、メーカーヒアリングに私どもも同席してるわけではないので、やはり私どもとしても、どこまで何を調整してるかという、そこは詳細は正直わからないというところなんですよ。

ただ、誤解されてはいけないなというところで、こういう日々の、こういう業務をやる上では、

そこはきちんと前もって情報を共有化した中で臨んでいるということだけのご理解いただければと思います。ただ、確かに今回、金額が乖離が生じたというところで、なかなか私ども組織市3市が一緒に入った中で調整をしていませんというところを、先月の協議会で申し上げた。

ただ、そうはいつでも、先月の協議会で発言した思いというのは、やはり先ほど田中さんのほうからお話があったように、私も市に戻れば当然東大和市民に対して、きちんと説明をしなければいけない。ですから、市民の方が来たときに、いや、この事業は組合事業だから、組合に言ってくださいとは言えないわけですよ。ですし、逆に言うと、言ってはいけない言葉ですから、そこはきちんと責任もって、私どもが対応しなければいけない。

なので、私は、そういったところの思いもあって、少しきつい言い方だったんですが、やはりそこも金額の乖離を調整するメーカーヒアリングについては、私は参加がしたいという思いが実はあったためにね、そこについては情報がおいてないということで、先月の協議会では言わせていただいたというのが本音の部分でございます。

ですから、あの、全部組合に押しつけるつもりも、今もないですし、これからもないというのがございます。まして、施設ができれば、これから10年、20年と使っていく施設にもなるわけなので、そこについては、前、数カ月前の協議会でも第2の恫喝者として、皆さんにお叱りを受けたわけですが、そこまでいいかげんな仕事をしているという認識は私にはないというのが今も変わりはないので。ですから、あのときどうだったんですかというのは、きちんと自分の口から市民に対してしゃべっていかなければいけないという思い、今も変わってませんし、これからも続ける。

で、もし私が、おまえはもう異動だよって言われたとしても、次の後任の方は来るわけですし、要するにごみ処理事業って、そんな簡単にすぐ終わる事業ではない。要するに私どもが生活する上では絶対になくてはならない施設であることには違いがないので、ですから、そこはきちんと継続した事業運営が、皆さんの意見やそういったものをきちんと耳に傾けた中でね、きちんとそれで進めていけるようにしなければいけない。

ですから、ごみの有料化一つとってもそうだと思うんです。有料化したから東大和は終わりだというわけではないと思いますので、やっぱりそういうところについては、限られた職員であって、できの悪い職員、私みたいなのいるかもしれないんですが、でもやっぱりそこは皆さんの協力がなければ、このいろんな、どの事業をとってもうまくいかないという部分があるので、そこについては、きちんとですね、組合と一緒にやっていきたいというふうに改めて、すいません、言わせていただきます。

以上です。

【森口専任者】

はい、森口です。今、お話いただきましたけれども、すると聞いてると、必要な施設ですからというふうにまた言ってましたけれど、そういうことについて、まだ話し合いとして、この協議会で結論が出ていないということが1つと、それと松本さんはいなくなったときもちゃんと引き継ぎをやっていくと言いますが、ずっとここに住んで、この施設、できてしまえばこの施設と向き合わなきゃいけないのは私たちなんで、あなたたちが仕事で座っているより私たちはずっと真剣にここに来て、自分たちに影響のあることなんで座ってますので、その辺を勘違いしないでください。

【小川専任者】

イーストスクエアの小川ですけれども、まあ、さっきの松本課長、東大和の市役所の課長であり、私も東大和市民ですけれども、まあ、ごみの問題は、さっきおっしゃるとおりだと思いますけれども、それで、ちゃんと市民の方の耳を傾けてという話をなされたんで結構なことだと思います。

そこで、話、あるんですけども、ちゃんとお話を、市民の、周辺住民の意見を聞いて、それで良心のある決断をしてください。で、私たちは最初から必要ないと思っているんですよ。なくてもできる問題を幾らでも提案しました。だけど、ここでは建てるのが前提だからちゅうことで、全部そこで多数決でもないし、そのまま進められてます。だから、そのところは、私たちの、この、必要もないのに、いろんな方法があると。ごみの減量。まだ減量してからでも遅くじゃないかという案をいっぱい出しました。だけど、上から市長がやると言うからおたくたちはやっていると思うんですけども、そういうこの集まってる市民の方の、周辺住民、市民の方のお話をよく聞いて判断してください。

それと、最初から30億、40億と聞いたら、ほかの市民もあっと驚くはずですよ。それを最初出るときは13億とか何とか言って、何か安心させておいてから、つくって、実施計画があって、契約段階になって30億、40億になりましたと。もう決まったことだからということでは済まされなと思いますよ。だから、私は、まあ、時間がないので一言結論として、いろいろな方法ありますので、いろいろな方法を考えて、こんなむだな施設はつくらないでほしいと。最後に私は一言言っときます。

【坂本代表者】

最後に一言言わせてください。松本さん、おっしゃったことはよくわかります。それで、異動になってもですね、3市の課長さん方ですね、私のときにこういう問題があったけれども、要するに中止の方向に尽力したと胸を張って言えるように頑張っていたきたいと思います。こんな

の、むだなことをやってもしょうがない話なんで。負担するのは全部市民ですから。前の東大和市長もこのことについては、庁議で反対ということをして1回、意思表示してるわけですので。それを何でひっくり返したかはわかんないんですけども。要するにむだなことはやめる。市民に寄り添った行政をやるのが、要するに行政マンとしての義務じゃないでしょうか。だから、3市が、これはやめたほうがいいよと言ったら、四面楚歌したら、組合だけが一生懸命やってもできないわけですので。そこは良識ある、その組合議員さんたちにも頑張ってもらいたければと思います。

以上です。

【邑上会長】

いいですか。はい、邑上です。ちょっとだれも言わないので、あの、私の個人的な、うがったというか、疑ってかかると、最初に安い金額で出して、いろいろなところが承認って形で進んでいって、実際はふたをあけたらこうですって高く出すというやり方、で、それで、組合議会なり、市議会は通るであろうということを進めてるんじゃないかなっていう気が、私は個人的にはちょっとしますけれども。

ちょっと確認したいのは、ちょっとさっきの、前の話に戻りますけども、22日に衛生組合議会のほうで、その補正予算ということで話が進むようなんですが、そのときには、ランニングコストの内容は、その議案の中には、説明の中には入っているのか、いないのかは、もう決まっているかだと思いますので、入っているか、入っていないかということだけはお話ししていただけるかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

【片山参事】

入っておりません。

【邑上会長】

入ってない。

【片山参事】

はい。

【邑上会長】

入ってないですか。はい。じゃあ、あとは議会のほうで、そのランニングコストが入ってないけれども、これはいいねっていうふうに思う議員が多ければ承認されるしということですね。疑問だと思えば否決されるかということですね。ということで、まあ、議会に行く方はよく見ていただければと思います。じゃあ、ランニングコストは入ってないということだそうです。

で、21時になりますので、きょうはこれで終わりかなと思います。

今回、あの、いろいろとありました。確認表の中で幾つかありましたけれども、次回からはそ

のスケジュールの説明、前々からずっと岡田さん、言われてましたけど、スケジュールは毎回ちゃんと提示して、説明してもらいましょうということ、きょうまたお話、出て、これはそうしようということになったと思いますので、スケジュールの説明は、まず必ずやると。

あと議事録ですね。議事録については、一応10日前？ 10日前に配付してもらおうということをもまず努力という形になるかと思えますけれど、やっていただくということと議事録の作成からホームページへの開示に至るまでのプロセスの確認。提示。あとは改善ですね。ということをおそらく少なくとも次回には提示していただけるかと思えますので、そちらをお願いします。

今、お話があった、その22日の衛生組合議会が終わった後の内容というのは、またそれも説明されると思っていいですかね。はい。じゃ、そちらもお願いします。

あとは何かありますか。大体書かれてる内容で、あの、そちらにまずは書かれるとは思ってるんですけども、何か足りないこととかありますか？

【山崎専任者】

お願いなんですけども、今回も要求・確認事項リスト、まあ、配られましたけども、前回に引き続いて、説明はされてません。まあ、これ、ざっと読みましたけども、ほとんど回答になってないなと思えますんで、どうなんですかね、別途時間をとって、これ本当にきちとした説明をされないと、私はこの資源物処理施設の処理量って言うんですかね、これ確定できないと思ってるんです。

まあ、前回の資料でもあれしましたけども、その組成分析の結果で、1回目は確かに1,500トンぐらいですかね、になるよということだったんですけども、2度目をやると2,000トンに、小平市の燃やしてるごみですね、がふえちゃうんですよ。ということは、要するに組成分析で計算した数値を出すと、燃やしてる量が以前に比べて1,000トンふえちゃって、約ですね。で、その根拠がないっていう50%が移行したとしても、500トンふえちゃうんですよ。で、本当に、その2回やっただけでね、こんなに数字が、処理量に変化しちゃってるデータを使って、最終的な処理量を確定しちゃっていいのかというのは、一つ非常に疑問なんです。ですから、こちら辺はしっかり説明を聞いて、皆さんが納得できる説明をしてもらわないと、とてもこの数値でやりましょってということには多分できないと思います。そうですね。

【邑上会長】

今、山崎さんのお話は、今、見積もりとして挙がっている処理量の算定自体に間違いがあるんじゃないかっていう指摘ですね。で、それをきっちりやりとりして、山崎さんは当然これおかしんじゃないかと。当然衛生組合側はこれでいいんだって話になっちゃったと思うんですけども、そこをもうちょっと別の時間を使って、詰めては、前々から言われているように、別

にやったらどうですかという話をまた提案ということでいいですか。

【山崎専任者】

そうですね。そうしないと、これ、紙だけもらって、私、もらった紙に対して、書いてあることに対して、また書いて送るんですけども、結局それやりとりだけで、実際の、この回答見たって、組成分析による予測が最も適切と考えてますって書いてあるだけなんですよ。具体的な根拠だとか、裏づけデータって何もないんですよ。いや、こういう、何て言うんですか、資料もらいましたけども、こういうやつと一緒に一つについてくるのかなと思ったんですよ。ここはこうだから、こうだから、これは合ってるんだという裏づけデータとか、そういったものないじゃないですか。

我々、我々というか皆さん委員の人は、自分の時間を使って、時間を犠牲にして、資料をつくったり、こういったものをつくって送ってるわけですよ。だけど、あなたたちの回答って、こんな回答しか来ないじゃないですか。何があれなんですか。適切？ 適切な根拠だとか、妥当性だとか、そういったものを資料で出してくださいよ。そうしなかったら説明になんないでしょ。

【邑上会長】

そういう場をつくるということで。

【山崎専任者】

回答になんないですよ。

【邑上会長】

そういう場をつくって。

【山崎専任者】

のほうがいいのかなって。

【邑上会長】

この場だと、なかなかできないから。

【山崎専任者】

結局ここでだと、紙のやりとりだけで終わっちゃいますんで。まあ……。

【邑上会長】

それはそういう、前々から岡田さんも別にその……。

【岡田専任者】

別でなくても。

【邑上会長】

別にこうやったほうがいいんじゃないのっていう話、ありましたし。今、山崎さんも……。ん？

【小川専任者】

だから別じゃなくても、最初に、それやればいいじゃないですか。

【邑上会長】

いや、この内容。

【小川専任者】

内容。

【邑上会長】

詰めるのに、だから、この場で当然出すにしても、その前に細かなことは多分いろいろいっばいやりとりしていかないといけない。

【山崎専任者】

やってないんですよ。

【山崎専任者】

だから……。

【邑上会長】

というのを一回やって、その上でその内容をまた提示して……。

【山崎専任者】

まあ、それでもいいですけどもね。

【邑上会長】

というふうにしたほうがいいんじゃないかということですよね。

【山崎専任者】

うん、じゃあ、そのとき……、こういう回答だと全く多分理解できないんです。

【邑上会長】

ずっとやり続け、同じことずっとやり続けなきゃいけないからということですね。

【山崎専任者】

そうです、はい。

【邑上会長】

そういう場を……。

【山崎専任者】

だから資料くださいっていうこと。

【小川専任者】

そう。

【邑上会長】

そういう場をつくってほしいというのは、別に。どうですか、その辺。

【小川専任者】

大事なものだからね。大事なことですよ。

【山崎専任者】

というのが1つと、あとこの要求・確認事項リストなんですけども、今回みたいな、回答が非常に単純なやつだから、あの、その場でもらってもわかるんですけども、我々はこれを出すときは、早目に出すわけですよ。そうしないと印刷もしてくれないときもあるし、回答もしてくれないときがある。だけど、組合から回答もらったときは、当日配付なんです。この場で見て、もし質問、説明されても、この場で再質問するというのは、検証することもできないし、数字的なものも確認もできないし、そういう状況です。何かおかしいでしょ。組合から出すときは早目に出せと言うわけでしょ。で、組合から回答来るときは当日しか来ない。だから、これだって、議事録と一緒に、当日配付するものは10日前に出してくださいよ。

【小川専任者】

そうだよ。

【山崎専任者】

添付資料も含めて。

【小川専任者】

そうそうそう。

【山崎専任者】

じゃないと検討する時間がないですよ。検証する時間もないです。だから、公平にやりましょうよ。いいですか。それでいいですか。返事ないんでいいんですね。

【片山参事】

今、2つあったんですけど、1点目の、あの説明資料というのは、もうお示ししてまして、それに対してですね、新たな分析データが出たので、それで見直すべきじゃないかという山崎さんの発言があって、それは個別にやりとりをしていますけども、平行線のままですよね。ですから、もう一度集まっても、終わった後に、この間やりとりした記憶があるんですけど。

【山崎専任者】

やってないですよ。

【片山参事】

いや、2人でですよ。

【山崎専任者】

2人でやったけども。

【片山参事】

平行線なままですんで、あの、別の会を設けていただくのは、それはありがたいことなんで、それは結構ですけども、多分平行線のままかなというふうに、その点は思います。

【小川専任者】

平行線じゃなくて、その根拠とか、資料を出してくださいって言ってるじゃないですか。

【片山参事】

資料はお示しして、既にお示しをして。

【小川専任者】

だから、それをここでやりましょうよ。

【森口専任者】

あの、いいですか。

【片山参事】

説明をさせていただいておりますので。

【山崎専任者】

その資料って何なの、どの資料なんですか。具体的に言ってくださいよ。

【片山参事】

以前、説明してる資料ですけどね。

【小川専任者】

資料は出したんですか。

【片山参事】

資料は出してますよ。

【小川専任者】

もらいましたか。

【山崎専任者】

いや、記憶がないです。だから、資料っていうの、わかりません。ここにも書いてありますけども、資料配付済みとかっていろいろ書いてありますけど。

【片山参事】

はいはい。それはあの、ベースデータをという希望が要望の中にありましたので、そのベースデータをきょうコピーしてお渡ししましたんで。

【山崎専任者】

時間がないので申しわけないんですけど、この1番目が、1番として書いたのは、もともと片山さんのほうがベースデータを見せない、提示して、説明しないと理解できないだろうからという発言から始まって、それが一番上です。それで、それだから出して下さいよって言ったら、何か別の資料で説明したから出さない、で、協議会で請求されたわけじゃないから出さないって書いてあったんです。書いてあるんです、回答が。だから、だったらベースデータをもとに、小平市の燃やしてるごみの量を図でわかるように説明を、図や表を使って出して下さいって書いたんです。次の質問がです。それに関してあれじゃないですか、今、出てきたのは、多分これベースデータでしょうね。

【片山参事】

そうですね。

【山崎専任者】

だから、質問の内容と違うんですよ。ベースデータをもとに燃やしてるごみがどうやって変化して行って、その最終的に50%になるかっていうのを図や表を使って教えてくださいって言うてるんです。

【片山参事】

図や表に……、図ですけども、前回の資料、前回のところにありますけど、小平市さんから。

【山崎専任者】

え？

【片山参事】

前回じゃないかな。もっと前かな。小平市さんがつくった資料が配付されてるはずですけど。

【山崎専任者】

それ、どれですか。まあ、そういうところが……、今やると時間あれしちゃうんで。

【邑上会長】

そうですね。

【山崎専任者】

結局はしっかりやったほうがいいと思いますよ。嫌でしょうけど。

【松本課長】

ごめんなさい、今の話なんですけど、ちょっと別途、日程調整させてください。確かにどこかでやらなければ、このままずるずるずるずる行っちゃうだけなので。ちょっと別途、日程調整を検討したいので、もう一度、すいません。

【森口専任者】

で、あの、私からも一言。私も質問票を出して、私はこの建設の部とかっていう表じゃなくて、自分で森口式の質問票を出して、7月に出したのが、7月の協議会が近かったために、配付されたのが9月の配付資料になりました。9月ね、森口の配付というんで書いてあったんで、見落としてたんですけど、えっと、きのう見たらば回答が書いてありました。で、回答いただいたのはいいんですけど、この回答が最終回答であるならば、この回答に関して、9月の資料の中にあると思うんですが、質問、回答についての地域委員の認識とか、及び見解っていうのをみんなですくような欄を設けてありますので、それについて、やらしていただく機会が欲しいと思います。

で、その中にも、あの、まず岡村部長の、この間の恫喝発言からのときにもあったんですけど、民間委託を、あれの発言の前の問題は、一遍民間委託をして、小平の量をはっきりさせたらどうかっていうところから始まってますよ。

【山崎専任者】

そうですね。

【森口専任者】

ええ。とにかく、そこが発端なんで、今、山崎さんからも量がどうなんだということできんざんもめてます。一番はっきりするのは、やっぱり委託して、一遍どれぐらいの量になるかをきちり分けていただくのが一番早いことなんでというふうに書いたらば、その回答が「推定値をもって対応が可能であると考えております」という……。

そういう考えしかないんで、これがその考えであるんだったらば、それはおかしいというふうには協議会で、みんなが数字を、山崎さんの説明を受けて。山崎さんの説明はもう完全に山崎さん自身がちゃんと説明の用紙をつくってきてるんで、そういう山崎さんが皆さんに説明できる場を与えていただいて、山崎さんの説明を聞いて、協議会の人それがそうだねって言えば、もう組合さんの出してるほうの説明はもう出切ってるというんで、おかしいかどうかだけ、皆さんの承認を得ればいいと思いますよ。

なので、また別途、場所を設けると、別途、場所を設けた、違うところでやったからっていつて、聞いてる人が少なかったからって言われてもあれだし、個人で話してたんだから、それで終わっちゃったっていうんじゃないんで、この次のそもそも論の検討の部で、山崎さん、そもそも論の部の時間に、きょうも突然来ても、どこからやったかわからないって言ってないで、山崎さんのそののころから入っていただいて、山崎さんの説明をしていただいて、みんながこんなに違うねっていうことが理解できたならば、それで構わないと思うんで、いかがでしょうか。次回、この時間を使って、そもそも論の時間を使って、山崎さん、資料まとめていらっしゃるんで、そ

れについて聞きたいと思うんですが。

(「はい」「よろしいです」などと発言する者あり)

【森口専任者】

よろしいですか。

(「はい」と発言する者あり)

【邑上会長】

一応、山崎さんからもともと提案ありましたので、一度、その、この詰めというのは、一回やっていただいたほうがいいと思うんですよ。その上で資料化して、説明していただくということでいいかなと。それは双方の説明があって、どっちがいい、どっちがよいと思いますとかでもいい、正しいと思いますとかでもいいと思いますけども、まあ、それは進め方は今後一緒に考えてもらってですね、やればいいかなと思うので。一旦ちょっと調整していただいて、会合、どっか持っていただいて。

【山崎専任者】

先に会合やるの。

【邑上会長】

一回詰める場合は、一回あって、その上で説明になったほうがいいかなと。

【山崎専任者】

じゃあ、その後、協議会ということ。

【森口専任者】

協議会、休憩してくれても……。

【邑上会長】

そこで平行線のままかもしれませんけれどね。平行線のままかもしれませんけど。

【森口専任者】

平行線ですよ。

【邑上会長】

はい。

【森口専任者】

それでどちらが正しいか皆で考える。

【邑上会長】

話というか、少なくとも、だから、この説明の内容を確認してもらう必要はあるかなと思いますので。

大分過ぎましたけども、これで、じゃ、終わり。えっと、次回。

【松本課長】

会長、ごめんなさい。

【邑上会長】

はいはい。

【松本課長】

1点だけ、ちょっと報告。

【邑上会長】

報告。はい。

【松本課長】

いいですか。すみません、1点だけ報告させてください。事業のスケジュールの中で、8月末までに衛生組合が東大和市に対して、当該地の都市計画決定をしてくださいってという申請をする予定になっていたものが、まあ、これはおくれて来てます。で、今月ですね、中旬ぐらいを目途に、衛生組合が東大和市のほうへ、その旨の申請をするという予定でいることだけ、この場を借りてちょっと報告させていただきます。

【森口専任者】

はい。今月の中旬というと、衛生組合議会の22日を待たないで、もうそっちへ行くわけですね。

【松本課長】

まあ、できれば、中旬目途なので、月末にはならないように、今、組合と調整はしたいと思います。ただ、申請者が……。

【森口専任者】

議会終わらなきゃ変ですよ。

【松本課長】

え？

【森口専任者】

議会終わらなきゃ変ですよ、組合。衛生組合議会が22日。

【松本課長】

ただ、えっと、今回はあくまでも、衛生組合から東大和市に対しての申請ですので、その申請が来て、東大和市が受理しました、それをもってして決まっちゃうわけじゃないんで、あの、前に協議会でも資料お渡しした、一般的な都市計画決定のタイムスケジュール、12カ月バージョン

ンをお配りしてるかと思うので、そのスタートの、最初の依頼文が今月中旬目途に来るという、そういうことです。

【坂本代表者】

ということは、11月に都市計画審議会はあるということですか。

【松本課長】

えっと……。

【坂本代表者】

勝手には決められないでしょ。審議会でしか。

【松本課長】

うん。あの、ただ、都市計画審議会もまだ別にうちのほうが申請いただいたから、すぐに諮問するという流れの予定にはなってませんので。結局……。

【坂本代表者】

東京都は、でも年4回ぐらいしかないですよ。

【松本課長】

そうです。で、どちらにしても、もう時期がこの時期なので、今さらすぐ年内にね、諮問するなんていうのは、それは少なくともあり得ない……。

【坂本代表者】

あり得ない。

【松本課長】

話になろうかと思えますんで。ただ、一応文書がね、来るというのがわかっていながら、この場で言わないっていうのは、それはおかしい話なんで、今、先に申し上げただけなので、次回、どうしても12月になっちゃうので、また協議会が。だから、そのときには、まあ、こういう形で、いつ、実はもらいましたよっていう話にはなろうかとは思いますが。

以上でございます。

【森口専任者】

今後はその予定もここに書き加えていただけるわけですね。

【松本課長】

そうですね。

【森口専任者】

はい。

【松本課長】

ただ、それが多分年明けにはなっちゃうと思うんですね。結局、今月中にもらったからといって、来月の協議会までに12カ月のスケジュール、仮に予定であったとしても、組めるかという、うちのほうの市の都市計画課のほうとの調整がありますので、なので年明けに、その12カ月予定は、また別途作成し次第、お配りはしたいと思います。

以上です。

【坂本代表者】

施設を建設しないとなったら、必要ありませんからね。

【森口専任者】

別じゃなくて、ここに入らないんですか。2番になるんですか。

【松本課長】

ああ、ああ。別途というのは、その中に入れますよという、要するに別立てでという。

【森口専任者】

ありがとうございます。

【邑上会長】

ありがとうございます。

次回のですね、連絡協議会、12月の10日。12月10日土曜日、同じ時刻ですね。午後6時半から。18時半から始まります。場所はここの桜が丘市民センターになります。

はい、きょうも大分過ぎてしまいましたけれども、お疲れさま、夜遅くまでお疲れさまでした。